

I-O DATA

HDL-ZWS シリーズ

すぐに取り出せる場所に保管してください

LAN DISK 管理マニュアル

はじめに

初期設定

詳細設定

資料

もくじ

注意事項など

本製品を使用する際の基本的な情報や注意事項です。必ずお読みください。

はじめに

安全のために.....	3
使用上のご注意.....	5
箱の中には.....	7
動作環境.....	7
オプション品について.....	8
各部の名称.....	9

初期設定

本製品の設置方法などです。運用にあたって必要最小限の設定になります。

初期設定

セットアップする.....	11
ユーザーを作成する.....	19
グループを作成する.....	20
共有フォルダーを作成する.....	22
ネットワークドライブを割り当てる.....	24
アクティブディレクトリ環境へ参加する.....	25
アクティブディレクトリ環境で共有フォルダーを作成する.....	27
電源を切る場合.....	30

本製品を運用する際の詳細設定

初期設定の後に必要に応じてご確認ください。

詳細設定

Windows Update.....	31
RAID 設定.....	32
iSCSI 設定 (HDL-Z4WS シリーズのみ).....	33
日時設定.....	37
サーバー名、ワークグループ、ドメインの変更.....	38
ボリュームのフォーマット.....	39
IP アドレス設定.....	40
パスワード変更.....	41
メール設定.....	41
Func ボタン設定.....	42
バックアップ設定.....	42
ユーザー数制限.....	46
アクセス許可.....	47
シャドウコピー設定.....	48
クォータ管理 (HDL-Z4WS シリーズのみ).....	49
DFS の設定.....	51

その他の情報

運用後に必要になってくる情報です。必要に応じてご確認ください。

資料

カートリッジの交換方法.....	56
出荷時状態に戻す.....	59
出荷時設定.....	60
ランプや LCD の状態.....	61
ログ、メール一覧.....	62
ZWS Manager.....	64
USB キーボードのキー配列を変更する.....	67
仕様.....	68

アフターサービス




お問い合わせについて.....	69
修理について.....	70

はじめに



安全のために

お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

● 警告および注意表示

 危険	この表示の注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険が生じます。
 警告	この表示の注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことがあります。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

● 絵記号の意味

 禁止
 指示を守る



危険

本製品を修理・改造・分解しない



火災や感電、破裂、やけど、動作不良の原因になります。



警告

接触禁止



雷が鳴り出したら、本製品や電源ケーブルには触れないでください。感電の原因となります。

ぬらしたり、水気の多い場所で使用しない



- ・お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。
- ・水の入ったもの（コップ、花瓶など）を上に乗らないでください。

本製品の小さな部品を乳幼児の手の届くところに置かない



誤って飲み込み、窒息するおそれがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、ただちに医師にご相談ください。

本製品の周辺に放熱を妨げるような物を置かない



火災の原因となります。

決められた電源・ケーブルで使用する



所定以外の電源およびケーブルで、本製品を使用すると火災・感電の原因となります。

故障や異常のまま、接続しない



本製品に故障や異常がある場合は、必ず接続している機器から取り外してください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

給電されている LAN ケーブルは絶対に接続しない



本製品に故障や異常がある場合は、必ず接続している機器から取り外してください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

本製品の取り付け、取り外し、移動は、必ずパソコン本体・周辺機器および本製品の電源を切り、コンセントからプラグを抜いてから行う



電源コードを抜かずに行くと、感電の原因となります。

煙がでたり、変なにおいや音がしたら、すぐに使用を中止する



そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 警告 ●電源 (AC アダプター・ケーブル・プラグ) について

AC アダプターや接続ケーブルは、添付品または指定品のもの以外を使用しない



ケーブルから発煙したり火災の原因になります。

添付の AC アダプターや接続ケーブルは、他の機器に接続しない



添付の電源ケーブルおよび AC アダプターは本機専用です。他の機器に取り付けると、火災や感電の原因となることがあります。

AC100V (50/60Hz) 以外のコンセントに接続しない



発熱、火災の恐れがあります。

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐにコンセントからプラグを抜く



そのまま使用すると火災・感電の原因になります。

ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わない



火災、感電の原因になります。

じゅうたん、スポンジ、ダンボール、発泡スチロールなど、保温・保湿性の高いものの近くで使用しない



火災の原因になります。

ゆるいコンセントに接続しない



電源プラグは、根元までしっかりと差し込んでください。根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントにはつながないでください。発熱して火災の原因になります。

電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らない



電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張るとケーブルに傷が付き、火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

本製品を踏まない



破損し、ケガの原因となります。特に、小さなお子様にはご注意ください。

取り付け、取り外しの際は手袋をつける



ハンダ付けの跡やエッジ部分などがががっている場合があります。誤って触れると、けがをすおそれがあります。

⚠ 注意 ●電源 (AC アダプター・ケーブル・プラグ) について

人が通行するような場所に配線しない



足を引っ掛けると、けがの原因になります。

熱器具のそばに配線しない



ケーブル被覆が破れ、接触不良などの原因になります。

使用上のご注意

大切なデータを守るために

- 定期的にバックアップする。
本製品を使用中にデータなどが消失した場合でも、データなどの補償は一切いたしかねます。
- 動作中にケーブルを抜いたり、激しく動かしたりしない。
接触不良によりデータ破壊などの原因になります。
- 本製品のコネクタ部分には直接手を触れない。
静電気が流れ、データが破壊されるおそれがあります。
- 本製品にアクセス中に電源を切らない。
故障の原因になり、データを消失するおそれがあります。

お手入れについて

- 本体についた汚れなどを落とす場合は、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 洗剤で汚れを落とす場合は、必ず中性洗剤を水で薄めてご使用ください。
- ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使用しないでください。
- 市販のクリーニングキットを使用して、本製品のクリーニング作業を行わないでください。故障の原因になります。

本製品を廃棄や譲渡などされる際のご注意

- ハードディスクに記録されたデータは、OS上で削除したり、ハードディスクをフォーマットするなどの作業を行っただけでは、特殊なソフトウェアなどを利用することで、データを復元・再利用できてしまう場合があります。その結果として、情報が漏洩してしまう可能性もありますので、情報漏洩などのトラブルを回避するために、データ消去のソフトウェアやサービスをご利用いただくことをおすすめします。
- ※ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくハードディスクを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。
- 本製品を廃棄する際は、地方自治体の条例にしたがってください。

家庭環境で使用する場合のご注意

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

※高調波規制対象製品：HDL-Z4WS シリーズのみ

その他のご注意

- 動作中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- 増設用ハードディスクをはじめて本製品に接続して使用する場合は、必要に応じてフォーマットを行います。
- 本製品起動処理中は本製品の電源を切ることはできません。
- ファイルコピー中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切るとコピーの処理が正常に行われません。本製品や増設用ハードディスクのアクセスランプを確認の上、電源を切ってください。
- 本製品を DHCP サーバが存在するネットワークに接続しても、正常に IP アドレスを取得できない場合があります。その場合は、本製品の IP アドレスを固定に設定してご利用ください。
- 本製品はローカルネットワーク上でご利用ください。本製品にグローバル IP アドレスを割り当て、直接インターネットに公開すると非常に危険です。
ルータを設置するなどして、インターネットから攻撃を受けないようにするなど、お客様にてセキュリティ確保をお願いいたします。
- 本製品設定中は本製品の電源を切らないでください。
- 動作確認済み以外のソフトウェアは、インストールおよび利用しないでください。
本製品の安定運用に影響を及ぼす恐れがあります。
動作確認済みのソフトウェアは以下の弊社ホームページをご確認ください。
http://www.iodata.jp/pio/hdd/landisk_soft
- 本製品を以下のような機能を設定して、利用することはできません。
 - ファイヤウォール、VPN、Web キャッシュの役割
 - メールサーバー
 - 認証サーバー（ドメインコントローラ等）
 - ネットワーク・インフラストラクチャ・サービス（DHCP、DNS、WINS 等）
 - ネットワーク負荷分散
 - クラスタリング
- 本製品にネットワーク経由で接続可能な Windows の端末数は OS の上限が HDL-Z2WS シリーズで最大 30 台、HDL-Z4WS シリーズで最大 50 台となります。
接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。
推奨する同時接続台数は、HDL-Z2WS シリーズは 30 台まで、HDL-Z4WS シリーズは 32 台までとなります。（ネットワークドライブの割り当ても同様です。）

箱の中には

- 本製品 (1 台)
- 電源ケーブル (1 本)
- (HDL-Z2WS シリーズのみ) AC アダプター (1 個)
- LAN ケーブル (2 本)
- ロックキー (2 個)
- 保証書 (1 枚)
- サポート USB メモリー (1 個)
- 管理マニュアル (本書: 1 冊)

■ユーザー登録について
シリアル番号 (S/N) は、本製品に貼られているシールに「ABC0987654ZX」のように印字してあります。シリアル番号 (S/N) は、ユーザー登録の際に必要です。
<http://www.iodata.jp/regist/>
▼こちらにシリアル番号 (S/N) をご記入ください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

動作環境

本製品を使用できる環境は以下の通りです。お使いの機種や環境を再度ご確認ください。

設定に必要な環境

本製品の設定を行うには、以下のどちらかの環境が必要です。

- 環境① Windows リモートデスクトップ接続可能なパソコン
(Windows® 7、Windows Vista®、Windows® XP)
- 環境② VGA コネクターを搭載したパソコン用ディスプレイ、USB 接続のキーボード、
USB 接続のマウス (環境①が無い場合)

対応機種

LAN インターフェイスを搭載し、TCP/IP 通信が正常に動作する DOS/V マシン

対応 OS

Windows® 7(32/64 ビット版)、Windows Vista®(32/64 ビット版)、Windows® XP、
Windows® Server 2008/ R2 *¹、Windows® Server 2003 SP1/ R2 *²

※ 1 Standard/Enterprise のみ対応しています。Server Core モードには対応していません。

※ 2 Standard(32 ビット版) /Enterprise (32 ビット版) のみ対応しています。

ご注意

- 本製品および別売オプション HDD「HDLZ-OP シリーズ」以外のご利用はサポート対応外となります。
- 本製品の設定には、Windows のリモートデスクトップ機能を利用しています。Mac OS など他のパソコンからの設定は行えません。上記「本製品の設定に必要な環境」の「環境②」をご用意ください。
- 本製品は、RAID 構成により、ハードディスクの故障によるデータの破損およびシステムダウンを防ぐことはできますが、ウィルスの感染やユーザーの操作ミス、使用中の停電などのトラブルに起因するデータ損失を防ぐことはできません。USB 接続した HDD などへのバックアップも留意してください。

対応外付けハードディスク

最新情報は弊社ホームページ <http://www.iodata.jp/> をご確認ください。

●対応 USB ハードディスク

HDJ-U シリーズ、HDJ-UT シリーズ、HDJ-HSU シリーズ^{*2}、RHD-UX シリーズ、
RHD4-UXE シリーズ、RHD4-UXR シリーズ、HDPN-HSU シリーズ^{*1*2}

※ 1 AC アダプターによる電源供給が必要です。

※ 2 暗号化モードにてご使用の場合は、本製品を起動後に接続してください。

●対応 eSATA ハードディスク

RHD-UX シリーズ、RHD4-UXR シリーズ

対応 UPS

最新情報は弊社ホームページ <http://www.iodata.jp/> をご確認ください。

●APC 製

SUA500JB、SUA750JB、SUA1000JB、SUA1500JB、SUA2200JB、
SUA3000JB、SUA750RMJ1UB、SUA1500RMJ2UB、SUA3000RMJ2UB

●OMRON 製

BY35S、BY50S、BY50FW、BY75SW、BN50S、BN75S、BN100S、BN150S、
BN220S、BN300S

オプション品について

各製品の詳細な情報は弊社ホームページ <http://www.iodata.jp/> をご確認ください。

カートリッジ

本製品に対する指定容量の交換用カートリッジをお買い求めください。

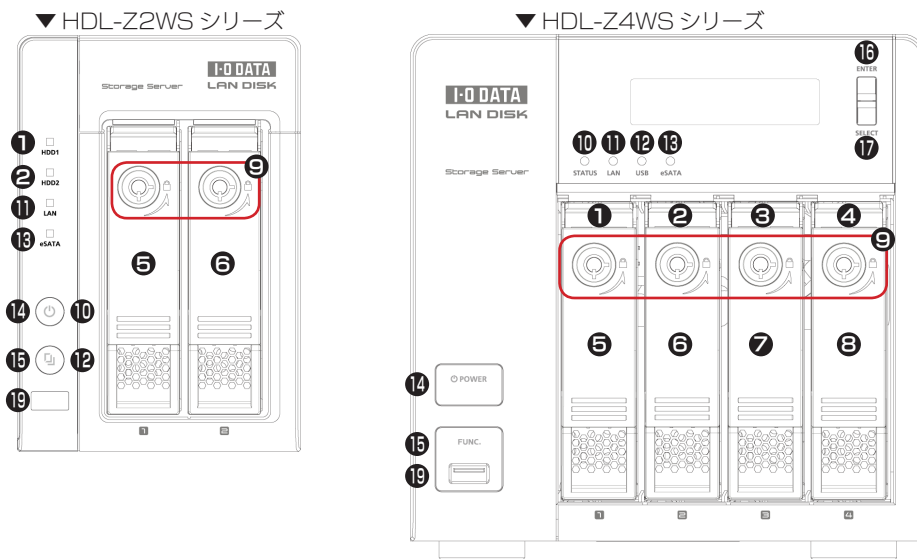
本製品	交換用カートリッジ
HDL-Z2WS1.0	HDLZ-OP500
HDL-Z4WS2.0	
HDL-Z2WS2.0	HDLZ-OP1.0
HDL-Z4WS4.0	
HDL-Z4WS6.0	HDLZ-OP1.5
HDL-Z4WS8.0	HDLZ-OP2.0

ご注意

- オプション品のカートリッジには、システムはインストールされていません。
- 本製品の容量を後から増やすことはできません。

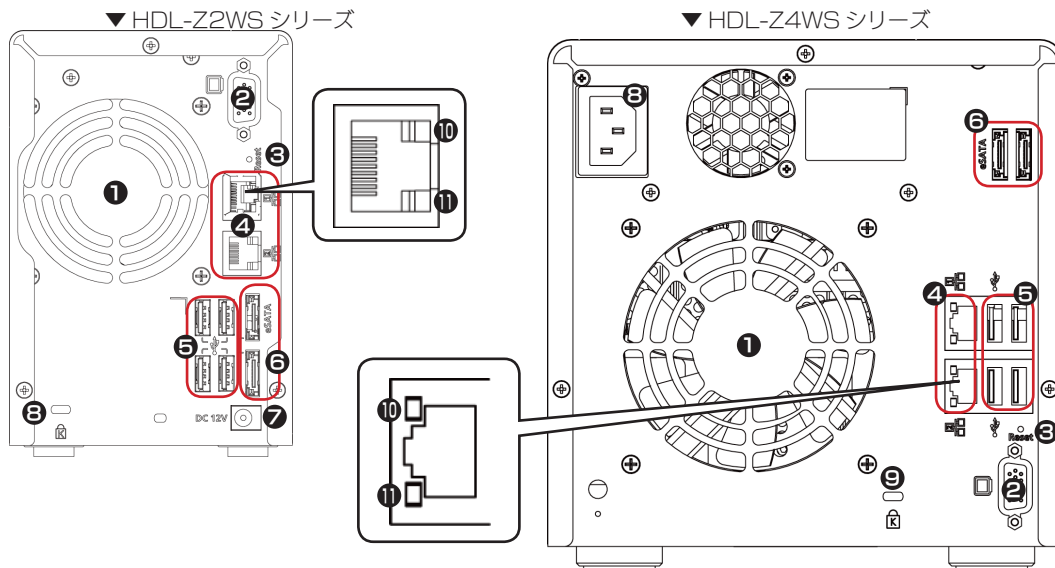
各部の名称

前面



① HDD1 ランプ	緑点灯	HDD 正常認識時
② HDD2 ランプ	緑点滅	HDD アクセス時
③ HDD3 ランプ	赤点灯	HDD エラー時
④ HDD4 ランプ	消灯	HDD 未接続時
⑤ HDD1		HDD カートリッジを接続します。
⑥ HDD2		脱着レバーは、HDD カートリッジを取り出す際に利用します。
⑦ HDD3		
⑧ HDD4		
⑨ カートリッジ固定ロック		HDD カートリッジをロック / アンロックします。
⑩ STATUS ランプ		本製品の状態を示します。 詳しくは、【ランプや LCD の状態】(61 ページ) をご覧ください。
⑪ LAN ランプ	橙点滅	LAN 1 / LAN2 アクセス時
	消灯	LAN1 / LAN2 未接続時
⑫ USB ランプ	青点灯	USB デバイス認識時
	消灯	USB デバイス未接続時
⑬ eSATA ランプ	橙点滅	eSATA1 / eSATA2 HDD アクセス時
	消灯	eSATA デバイス未接続時 / 非アクセス時
⑭ 電源ボタン		短押し (1 秒程度) → 本製品の電源を ON/OFF します。 ※電源 ON の状態で 3 秒以上押し続けると強制電源 OFF になります。 3 秒以上電源ボタンを押し続けしないでください。
⑮ Func. ボタン		3 秒以上押すとあらかじめ登録したプログラムを実行することができます。また、エラー発生時にブザーが鳴りつづけている時、2 秒以内押しすとブザーを停止します。
⑯ ENTER ボタン		LCD の表示を ON/OFF します。
⑰ SELECT ボタン		LCD の表示を変更します。 詳しくは、【ランプや LCD の状態】(61 ページ) をご覧ください。
⑱ 液晶ディスプレイ		本製品の情報を表示します。 表示内容については詳しくは、【ランプや LCD の状態】(61 ページ) をご覧ください。
⑲ USB ポート 1		増設用 USB ポートです。

背面



①ファン		冷却用ファンです。ふさがないでください。
②VGA コネクター		ディスプレイを接続できます。
③Reset スイッチ		使用しません。
④LAN ポート1、2		添付のLAN ケーブルを接続します。
⑤USB ポート2～5		増設用ハードディスクなどを接続します。
⑥eSATA ポート1、2		増設用ハードディスクなどを接続します。
⑦DC-IN		添付のACアダプターを接続します。
⑧AC-IN		添付の電源ケーブルを接続します。
⑨ケンジントンスロット		ケンジントンロックを装着します。
⑩ACT/LINK ランプ	橙点灯	LINK 中
	橙点滅	データを送受信中
	消灯	未接続
⑪1000/100/10 ランプ	緑点灯	1000BASE/T で接続中
	赤点灯	100BASE/TX で接続中
	消灯	未接続、または10BASE/T で接続中

初期設定

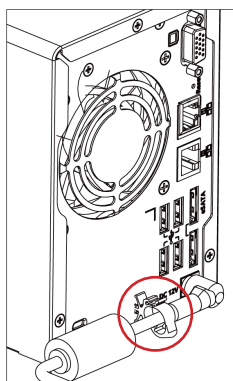
セットアップする

AC アダプター / 電源ケーブル を取り付ける

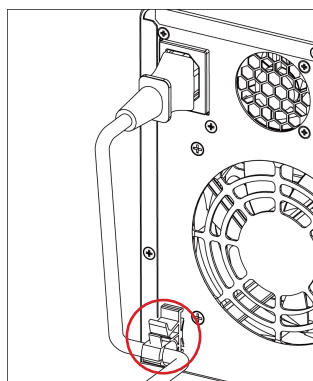
1 HDL-Z2WS シリーズの場合、添付のACアダプターを本製品の[DC-IN]に接続します。(添付の電源ケーブルは、ACアダプターに接続してください。)
HDL-Z4WS シリーズの場合、添付の電源ケーブルを[AC-IN]に接続します。

2 図のようにケーブルに付属の抜け防止クリップを本製品背面に装着します。

▼ HDL-Z2WS シリーズの場合



▼ HDL-Z4WS シリーズの場合



設定方法を選ぶ

本製品の設定は、Windowsのリモートデスクトップを使用します。また、DHCPサーバーの有無により手順が異なります。ご利用の環境をご確認の上、該当する手順をご覧ください。

Windows XP以降のパソコンとDHCPサーバーがある場合

→ **【設定方法①】** (12 ページ)

Windows XP以降のパソコンがあり、DHCPサーバーがない場合

→ **【設定方法②】** (14 ページ)

ネットワークを利用せずにセットアップを行う場合

→ **【設定方法③】** (17 ページ)

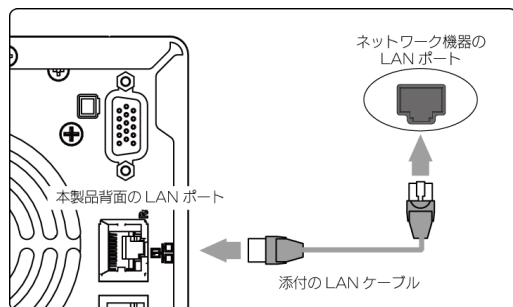
設定方法①

Windows XP 以降のパソコンと DHCP サーバーがある場合の設定手順です。

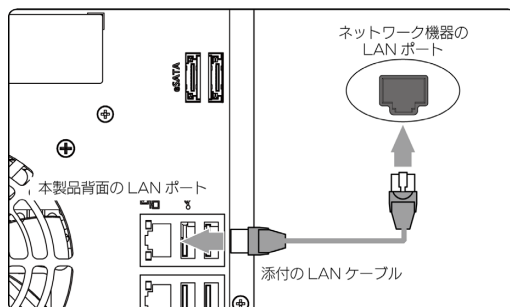
ステップ1 ネットワークにつなぐ

- 1 本製品の LAN ポートに添付の LAN ケーブルを接続し、もう一方をネットワーク機器に接続します。

▼ HDL-Z2WS シリーズの場合



▼ HDL-Z4WS シリーズの場合

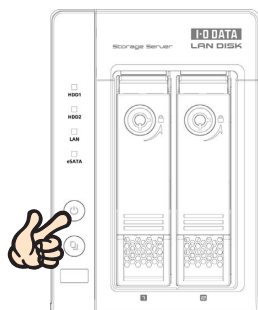


ステップ2 電源を入れる

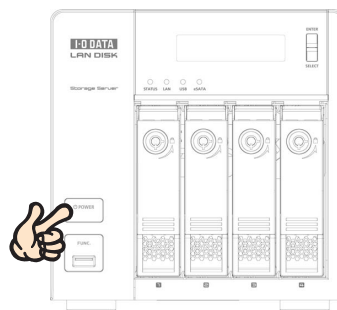
- 1 本製品の電源ケーブルをコンセントに接続します。

- 2 本製品前面の電源ボタンを押します。

▼ HDL-Z2WS シリーズの場合



▼ HDL-Z4WS シリーズの場合



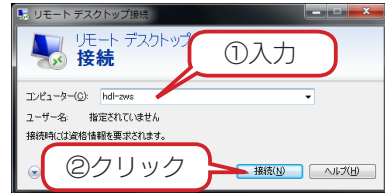
ご注意

- 動作中にシャットダウンを完了せずに、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。電源の切り方については、【電源を切る場合】(30 ページ)をご覧ください。
- 必ず、LAN ケーブルが確実に接続されていることを確認してから本製品の電源を入れてください。LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

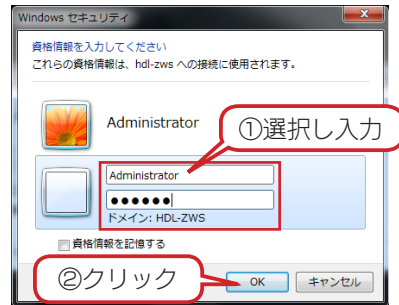
ステップ 3 本製品にアクセスする

1 [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[リモートデスクトップ接続]をクリックします。

2 [コンピューター]で本製品のコンピュータ名 (出荷時「hdl-zws」)を入力し、[接続]ボタンをクリックします。

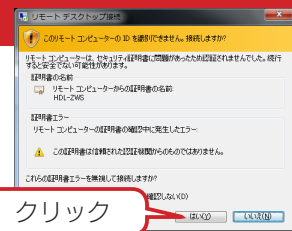


3 ログオン画面が開きますので、[別のアカウントを使用]を選択し、以下の[ユーザー名]と[パスワード]を入力し、[OK]ボタンをクリックします。
 ユーザー名: Administrator
 パスワード: admin
 出荷時パスワードは「admin」です。
 Administrator のパスワードを変更された場合は、変更後のパスワードを入力してください。



ご注意

- 右のような画面が表示された場合は[はい]ボタンをクリックしてください。



4 ログオンが成功すると、本製品搭載 OS Windows Storage Server 2008 の初期画面が開きます。この画面にて必要な設定が行えます。

以上で、セットアップは完了です。

次に【ユーザーを作成する】(19 ページ) へお進みください。

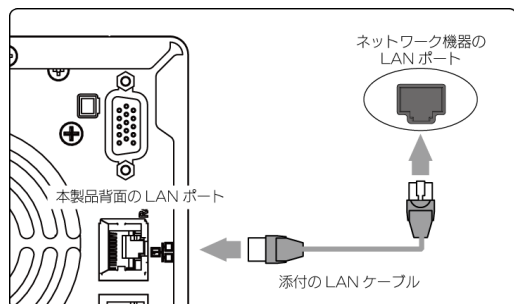
設定方法②

Windows XP 以降のパソコンがあり、DHCP サーバーがない場合の設定手順

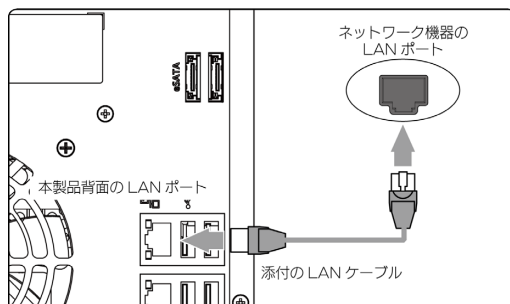
ステップ1 ネットワークにつなぐ

1 本製品の LAN ポートに添付の LAN ケーブルを接続し、もう一方をネットワーク機器に接続します。

▼ HDL-Z2WS シリーズの場合



▼ HDL-Z4WS シリーズの場合

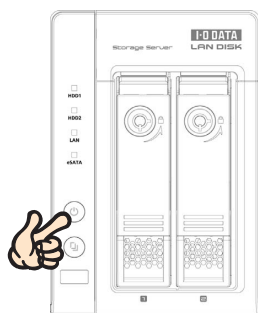


ステップ2 電源を入れる

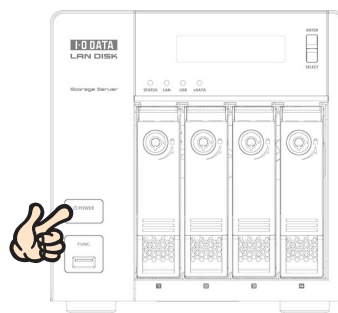
1 本製品の電源ケーブルをコンセントに接続します。

2 本製品前面の電源ボタンを押します。

▼ HDL-Z2WS シリーズの場合



▼ HDL-Z4WS シリーズの場合



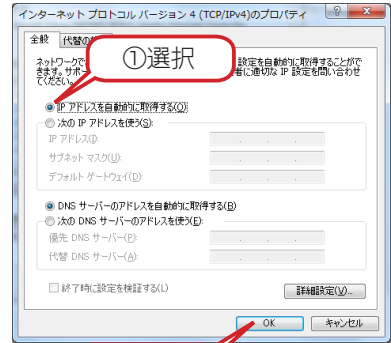
ご注意

- 動作中にシャットダウンを完了せずに、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。電源の切り方については、【電源を切る場合】(30 ページ)をご覧ください。
- 必ず、LAN ケーブルが確実に接続されていることを確認してから本製品の電源を入れてください。LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

ステップ3 設定用パソコンのIPアドレスを確認、設定する

1 現在の設定用パソコンのIPアドレスを確認、メモします。
後で、現在のIPアドレスに戻す必要がありますので、必ずメモしてください。

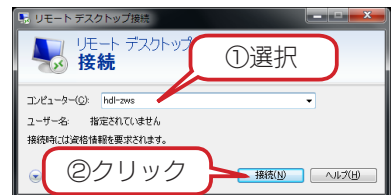
2 設定用パソコンのIPアドレスを一時的に [IP アドレスを自動的に取得する] に設定し、[OK] ボタンをクリックします。



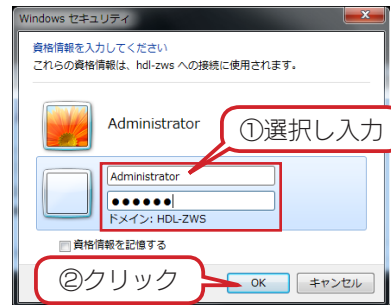
ステップ4 本製品のIPアドレスを設定する

1 [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[リモートデスクトップ接続] をクリックします。

2 [コンピューター] で本製品を選択し、[接続] ボタンをクリックします。

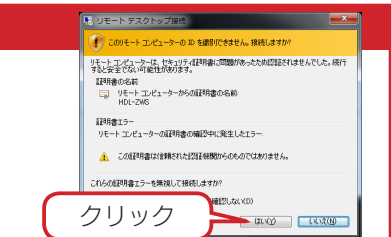


3 ログオン画面が開きますので、[別のアカウントを使用] を選択し、以下の [ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[OK] ボタンをクリックします。
ユーザー名 : Administrator
パスワード : admin
出荷時パスワードは「admin」です。
Administrator のパスワードを変更された場合は、変更後のパスワードを入力してください。



ご注意

●右のような画面が表示された場合は [はい] ボタンをクリックしてください。



- | | |
|----------|--|
| 4 | ログオンが成功すると、本製品搭載 OS Windows Storage Server 2008 の初期画面が開きます。この画面にて必要な設定が行えます。 |
| 5 | リモートデスクトップから、本製品の IP アドレスを【ステップ3】でメモした IP アドレスを参考にネットワークに適した値に変更します |
| 6 | IP アドレス変更後は、通信ができなくなるため、いったんリモートデスクトップ画面を閉じます。 |

ステップ5 設定用パソコンの IP アドレスを元に戻す

- | | |
|----------|--|
| 1 | 本製品から設定用パソコンを取り外します。 |
| 2 | 設定用パソコンの IP アドレスを元に戻します。
(設定用パソコンをネットワークに接続する場合は、変更した IP アドレスを元に戻す必要があります。メモした値に戻してください。) |

以上で、セットアップは完了です。

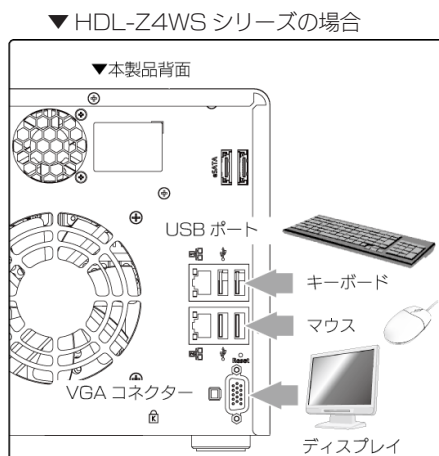
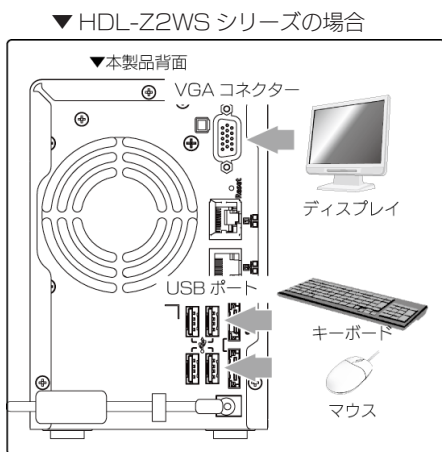
次に【ユーザーを作成する】(19 ページ) へお進みください。

設定方法③

ネットワークを利用せずにセットアップを行う場合の設定方法です。

ステップ1 本製品にディスプレイ、キーボード、マウスをつなぐ

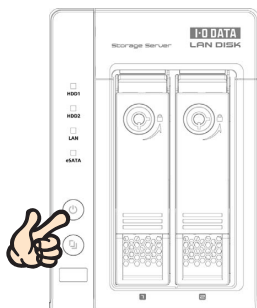
- 1 本製品のVGAコネクタにパソコン用のディスプレイを接続します。
- 2 本製品のUSBポートにUSB接続のキーボードを接続します。
- 3 本製品のUSBポートにUSB接続のマウスを接続します。



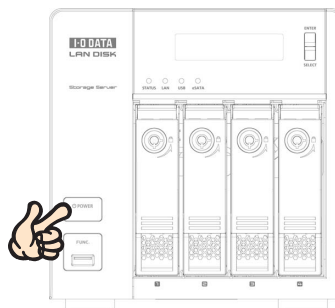
ステップ2 電源を入れる

- 1 本製品の電源ケーブルをコンセントに接続します。
- 2 本製品前面の電源ボタンを押します。

▼ HDL-Z2WS シリーズの場合



▼ HDL-Z4WS シリーズの場合

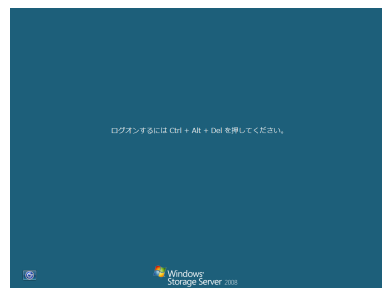


ご注意

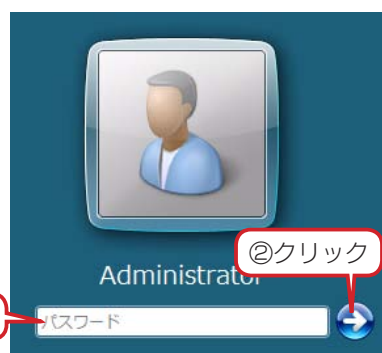
- 動作中にシャットダウンを完了せずに、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。電源の切り方については、【電源を切る場合】(30 ページ)をご覧ください。

ステップ 3 ログオンする

1 本製品が起動したら、キーボードの [Ctrl]+[Alt]+[Delete] キーを押します。



2 [パスワード] に「admin」と入力し、[→] ボタンをクリックします。
出荷時パスワードは「admin」です。
Administrator のパスワードを変更された場合は、変更後のパスワードを入力してください。



3 ログオンが成功すると、本製品搭載 OS Windows Storage Server 2008 の初期画面が開きます。この画面にて必要な設定が行えます。

ご注意

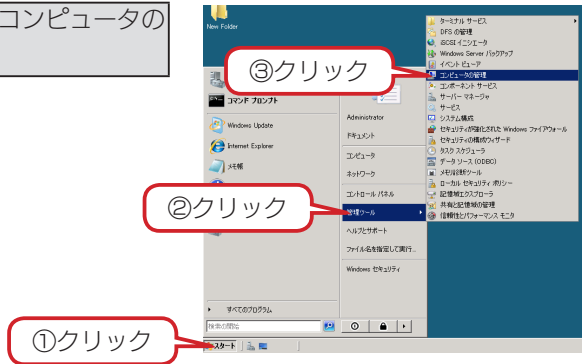
- USB 接続のキーボードを接続した場合、初期状態のキー配列は、英語配列として動作します。日本語配列のキーボードを使うには、【USB キーボードのキー配列を変更する】(67 ページ)の設定を行ってください。

以上で、セットアップは完了です。

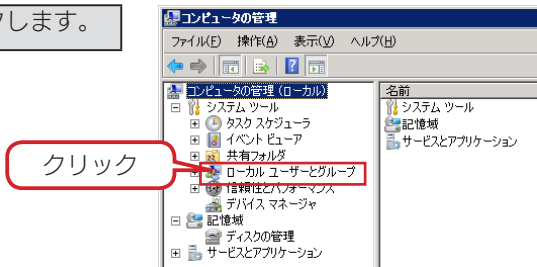
次に【ユーザーを作成する】(19 ページ)へお進みください。

ユーザーを作成する

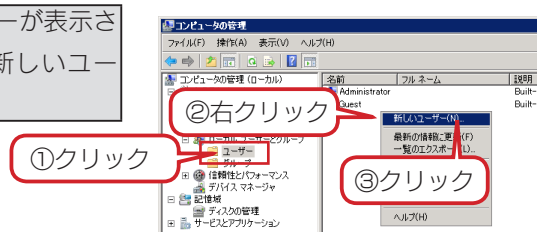
1 順に [スタート] → [管理ツール] → [コンピュータの管理] をクリックします。



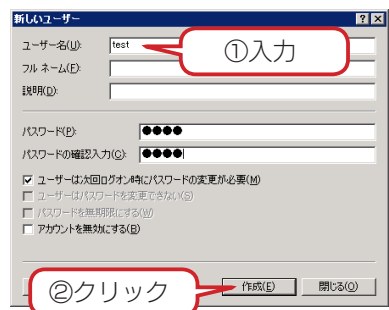
2 [ローカルユーザーとグループ] をクリックします。



3 [ユーザー] をクリックし、右側のユーザーが表示されているスペースを右クリックして、[新しいユーザー] をクリックします。



4 [ユーザー名] を入力し、[作成] をクリックします。
※他の項目も必要に応じて設定します。



以上でユーザーの作成は完了です。

はじめに

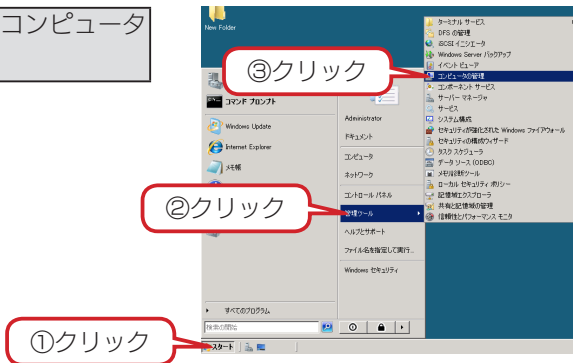
初期設定

詳細設定

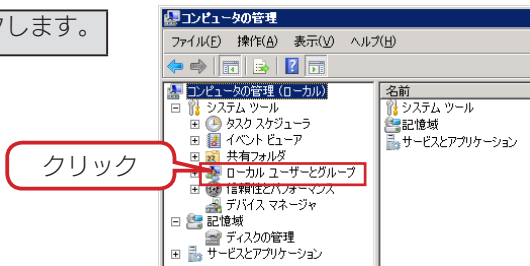
資料

グループを作成する

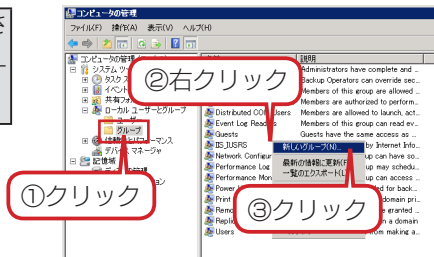
1 順に [スタート] → [管理ツール] → [コンピュータの管理] をクリックします。



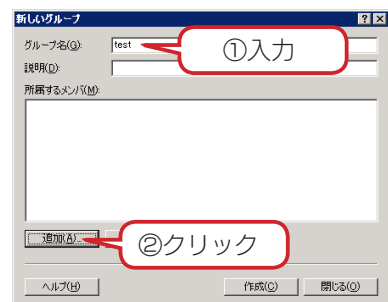
2 [ローカルユーザーとグループ] をクリックします。



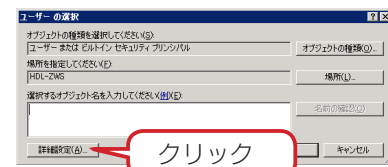
3 [グループ] をクリックし、右側のグループが表示されているスペースを右クリックして、[新しいグループ] をクリックします。



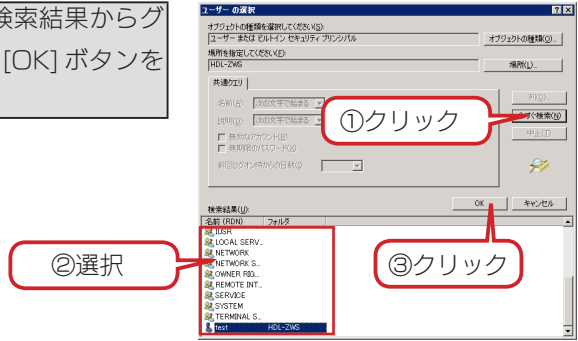
4 [グループ名] を入力し、所属するメンバの [追加] ボタンをクリックします。
※他の項目も必要に応じて設定します。



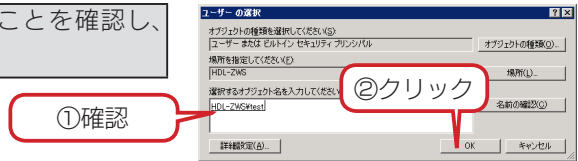
5 表示された画面で、[詳細設定] ボタンをクリックします。



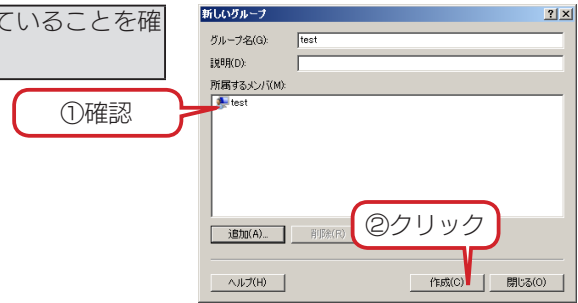
6 [今すぐ検索] ボタンをクリックし、検索結果からグループに登録するユーザーを選択し、[OK] ボタンをクリックします。



7 選択したユーザーが登録されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。



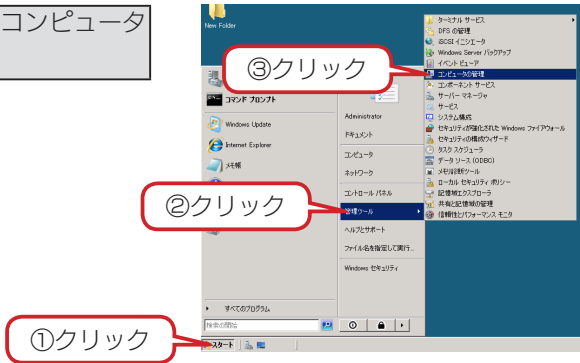
8 所属するメンバにユーザーが登録されていることを確認し、[作成] をクリックします。



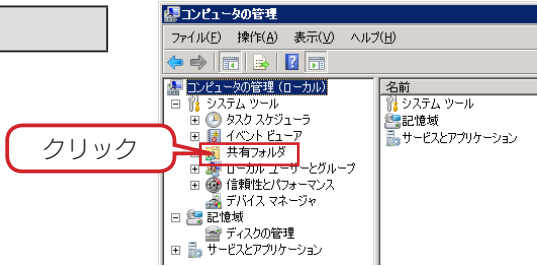
以上でグループの作成は完了です。

共有フォルダーを作成する

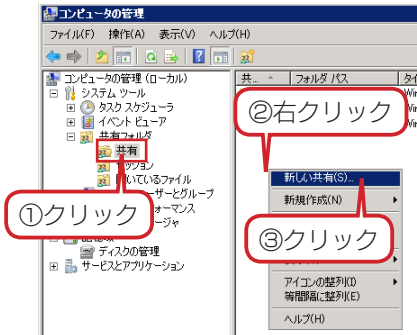
1 順に [スタート] → [管理ツール] → [コンピュータの管理] をクリックします。



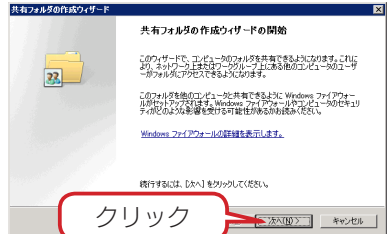
2 [共有フォルダ] をクリックします。



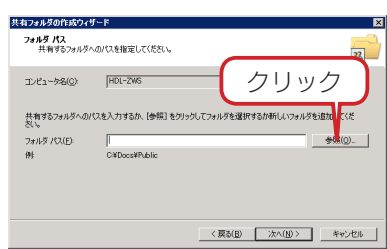
3 [共有] をクリックし、右側の共有フォルダが表示されているスペースを右クリックして、[新しい共有] をクリックします。



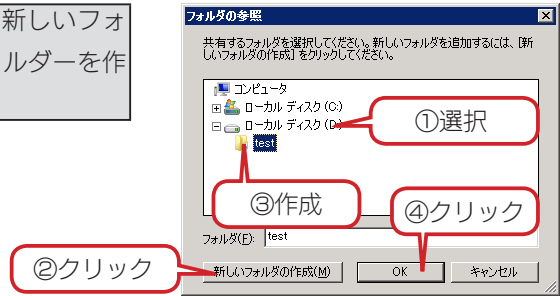
4 共有フォルダ作成ウィザードが起動しますので、[次へ] ボタンをクリックします。



5 [参照] ボタンをクリックします。

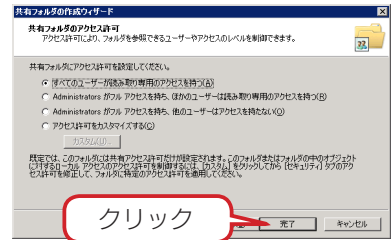


- 6 [ローカルディスク (D:)] を選択し、[新しいフォルダーの作成] ボタンをクリックし、フォルダーを作成し、[OK] ボタンをクリックします。



- 7 ウィザード画面に戻りますので、内容を確認して、[次へ] ボタンをクリックします。

- 8 アクセス権を選択し、[完了] ボタンをクリックします。
「アクセス許可をカスタマイズする」を選択した場合、[共有のアクセス許可] タブと [セキュリティ] タブでアクセス許可の設定ができます。



参考

- 「アクセス許可をカスタマイズする」を選択した場合、最終的なユーザーアクセス許可の設定は、「共有のアクセス許可」タブと「セキュリティ」タブのアクセス許可設定の論理和 (制限が厳しいほうが優先) により求められます。
例えば、[共有のアクセス許可] に [変更]、[セキュリティ] に [読み取り] を設定した場合は、ユーザーのアクセス許可は、[読み取り] になります。

以上で共有フォルダーの作成は完了です。

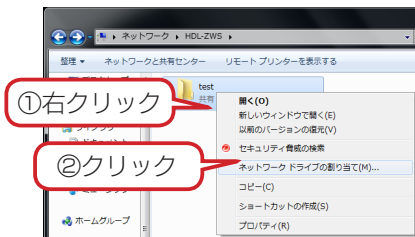
ご注意

- すべてのユーザーからアクセス可能な共有フォルダーを作成する場合、Windows Storage Server 2008 では、ユーザー "Guest" のアカウント初期設定は、"無効" になっています。
ユーザー "Guest" のアカウントを有効にするには以下の手順でおこないます。
- ① [スタート] → [管理ツール] → [コンピュータの管理] を順にクリックします。
 - ② [ローカルユーザーとグループ] をクリックします。
 - ③ [ユーザー] をクリックし、右側のユーザーが表示されている [Guest] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
 - ④ [アカウントを無効にする] のチェックを外し、[適用] ボタンをクリックします。

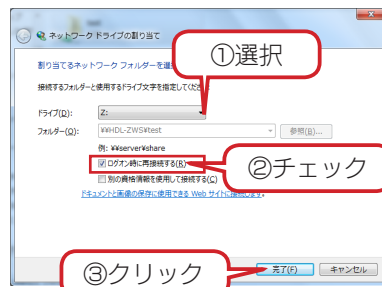
ネットワークドライブを割り当てる

本製品をネットワーク上から参照する際に、ネットワークドライブとして割り当てておくことができます。

1 ネットワークに接続されているパソコンから、本製品の共有フォルダーを表示後、右クリックし、表示されたメニューの[ネットワークドライブの割り当て]をクリックします。



2 ネットワークドライブを割り当てます。
①ドライブで本製品に割り当てる文字を選びます
②[ログオン時に再接続する]にチェックを入れます。
③[完了]ボタンをクリックします。



これでネットワークドライブの割り当ては完了しました。
[コンピューター]などを開き、割り当てられたドライブが認識されていることをご確認ください。

アクティブディレクトリ環境へ参加する

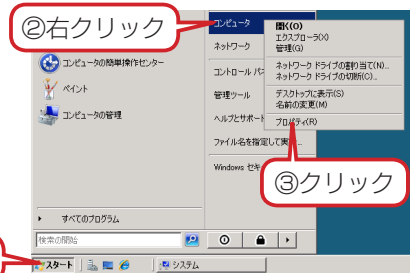
本製品をアクティブディレクトリ環境へ参加させる手順の一例です。

ご注意

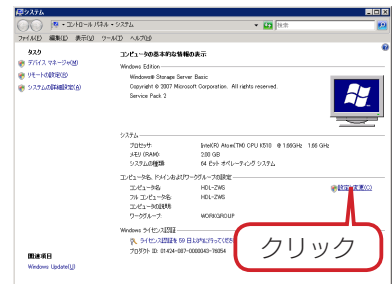
●以下の手順の前に、本製品の DNS サーバーの設定を行う必要があります。

Active Directory ドメイン名を解決可能な DNS サーバーを指定してください。

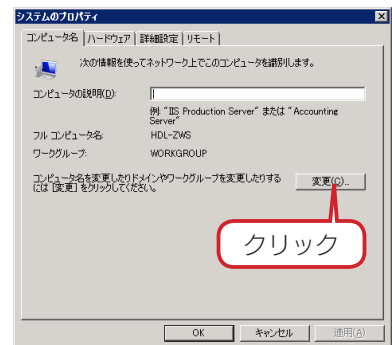
1 [スタート]をクリックし、[コンピュータ]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。



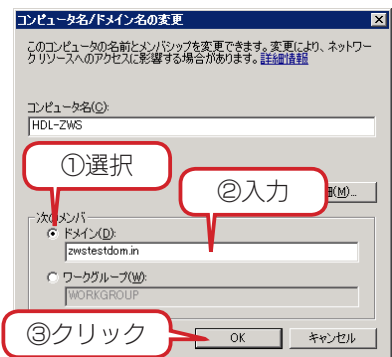
2 [コンピュータ名、ドメインおよびワークグループの設定]の[設定と変更]をクリックします。



3 システムのプロパティの[変更]をクリックします。



4 [ドメイン]を選択し、ドメイン名を入力して、[OK]ボタンをクリックします。
※画面は「ドメイン名：ZWSTESTDOM.IN」に参加する例です。



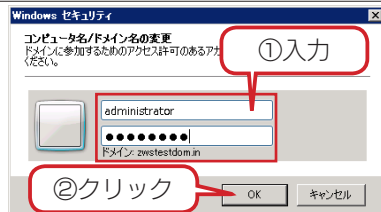
はじめに

初期設定

詳細設定

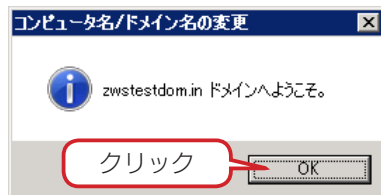
資料

5 ドメインコントローラにアクセス可能なユーザー名とパスワードを入力して、[OK] ボタンをクリックします。
 ※画面は、ドメインコントローラ” ZWSTESTDOM.IN”の管理者 (ユーザー名: Administrator) のアカウントを入力した例です。

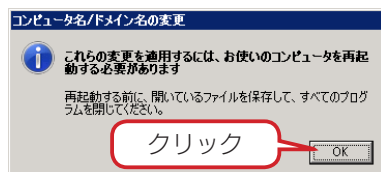


6 [OK] ボタンをクリックします。

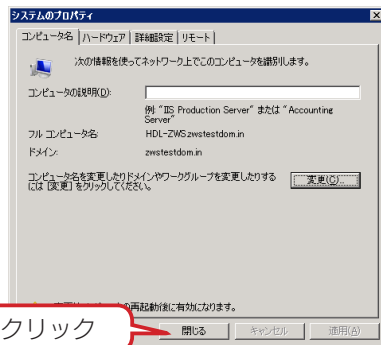
ご注意
 ●画面が表示されない場合は、アカウントが正しいことをご確認ください。



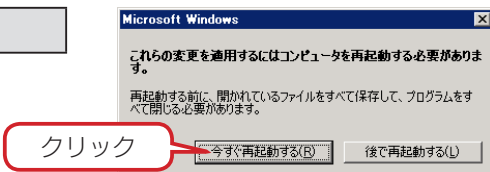
7 [OK] ボタンをクリックします。



8 [閉じる] ボタンをクリックします。



9 [今すぐ再起動する] ボタンをクリックします。



再起動後、本製品はアクティブディレクトリへのログオンができます。

アクティブディレクトリ環境で共有フォルダーを作成する

アクティブディレクトリに登録されているユーザー”zwsuser1”が読み書き可能な共有フォルダーを本製品に作成する手順です。

アクティブディレクトリ連携する共有フォルダーを作成するには、本製品がアクティブディレクトリへログオンしている必要があります。あらかじめアクティブディレクトリへログオンしておいてください。(【アクティブディレクトリ環境へ参加する】(25 ページ) 参照)

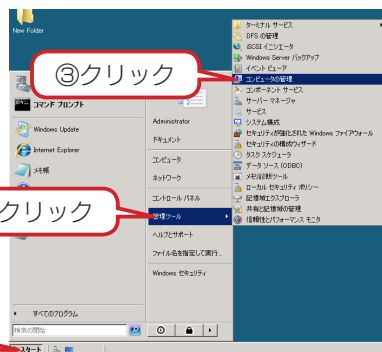
はじめに

初期設定

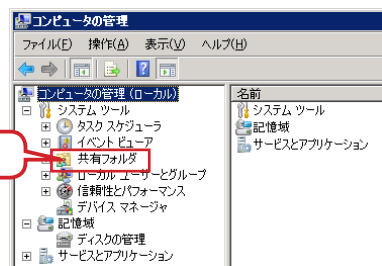
詳細設定

資料

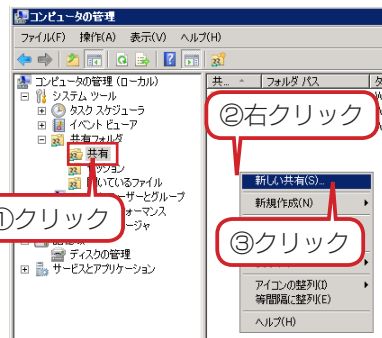
1 順に[スタート]→[管理ツール]→[コンピュータの管理]をクリックします。



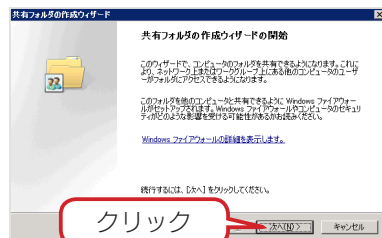
2 [共有フォルダ]をクリックします。



3 [共有]をクリックし、右側の共有フォルダが表示されているスペースを右クリックして、[新しい共有]をクリックします。

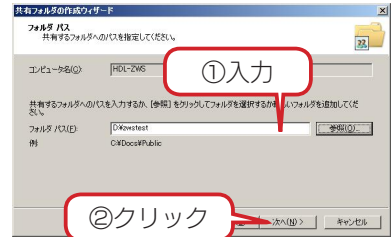


4 共有フォルダ作成ウィザードが起動しますので、[次へ]ボタンをクリックします。

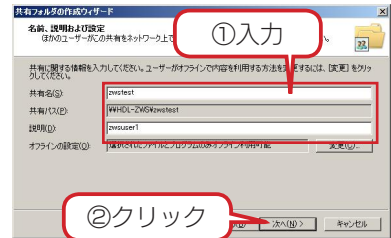


アクティブディレクトリ環境で共有フォルダーを作成する (つづき)

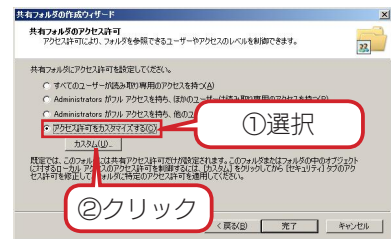
5 フォルダパスを入力し [次へ] ボタンをクリックします。



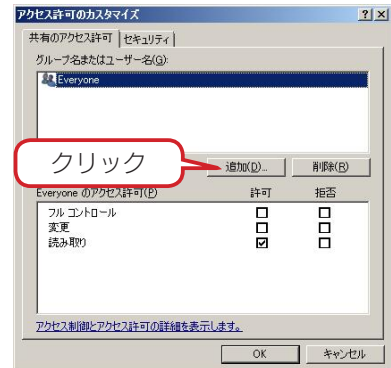
6 共有名と説明を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



7 アクセス許可をカスタマイズするをクリックし、[カスタム] ボタンをクリックします。

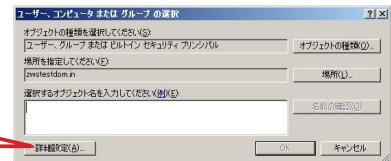


8 共有のアクセス許可タブで、[追加] ボタンをクリックします。

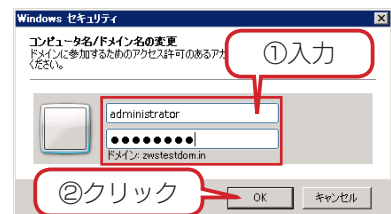


9 [詳細設定] ボタンをクリックします。

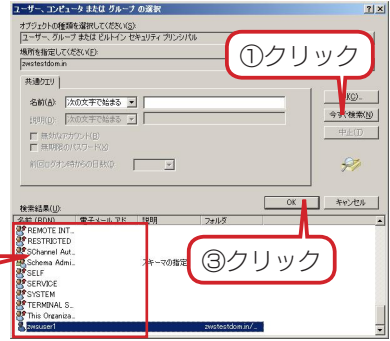
クリック



10 ドメインコントローラにアクセス可能なユーザー名とパスワードを入力して、[OK] ボタンをクリックします。
※画面は、ドメインコントローラ”ZWSTESTDOM.IN”の管理者 (ユーザー名: Administrator) のアカウントを入力した例です。



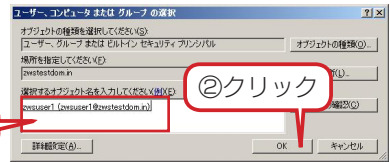
11 [今すぐ検索] ボタンをクリックし、検索結果から作成する共有にアクセス権を設定したいユーザー名、またはグループ名を選択して [OK] ボタンをクリックします。
 ※例では、ユーザー名: "zwsuser1" を選択しています。



②選択

③クリック

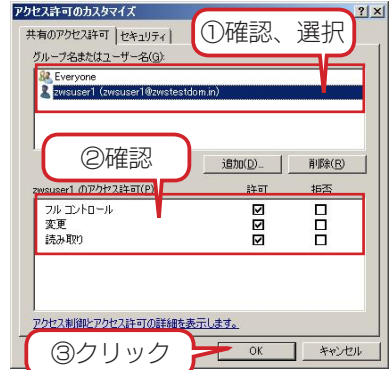
12 選択したユーザー名、またはグループ名を確認し、[OK] ボタンをクリックします。



①確認

②クリック

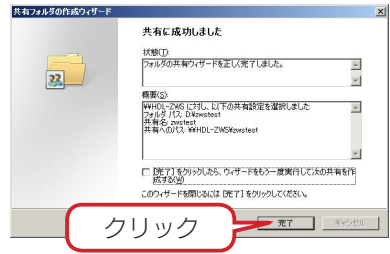
13 選択したユーザー名、またはグループ名が追加されたことを確認し、追加したユーザー名、またはグループ名を選択します。
 その後、アクセス許可を確認し、[OK] ボタンをクリックします。
 ※画面の例ではユーザー "zwsuser1" にフルコントロールを許可しています。



②確認

③クリック

14 内容を確認して、[完了] ボタンをクリックします。



クリック

これでアクティブディレクトリ環境で共有フォルダーが作成されました。

はじめに

初期設定

詳細設定

資料

電源を切る場合

本製品の電源を切る場合は、以下のいずれかの手順にしたがってください。

ご注意

- 外付けハードディスクやプリンターがある場合は、本製品の電源を切ってから、外付けハードディスクやプリンターの電源を切ってください。
- 長期間使用しない場合は、電源ケーブルをコンセントから外しておくことをおすすめします。

本製品の電源ボタンでシャットダウンする場合

本製品前面の電源ボタンを短押し（1 秒程度）します。

ご注意

- 電源ボタンを長押し（3秒以上）しないようご注意ください。
3 秒以上押した場合、強制電源断状態となり製品再起動後に RAID リビルドが発生する場合があります。

シャットダウン処理が終了すると、自動的にランプが消灯します。



ご注意

- HDL-ZWS シリーズがロック状態になっていると、電源ボタンを押してもシャットダウンできない場合があります。
その場合は、USB キーボードでロックの解除を行ってから電源ボタンを押してください。

Windows のリモートデスクトップにてシャットダウンする場合

スタートメニューから [終了オプション] をクリックし、[シャットダウン] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。

※ [オプション] [説明] は必要に応じて選択・入力してください。
シャットダウン処理が終了すると、自動的にランプが消灯します。

詳細設定

はじめに

初期設定

詳細設定

資料

Windows Update

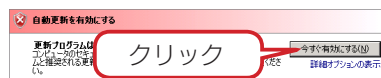
Windows Update を行うと、本製品にインストールされている OS の既知の脆弱性に対する最新のセキュリティパッチがインストールされます。必要に応じて行ってください。

ご注意

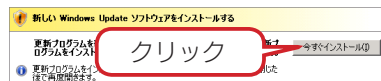
- 本手順は、本製品がインターネットにアクセスできる環境にある必要があります。

1 順に [スタート] → [すべてのプログラム] → [Windows Update] をクリックします。

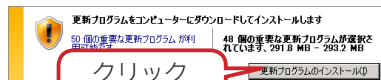
2 [今すぐ有効にする] をクリックします。
※出荷時は、自動更新が無効になっています。



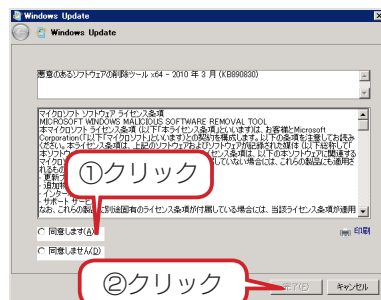
3 [今すぐインストール] をクリックします。



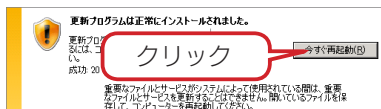
4 [更新プログラムのインストール] をクリックします。



5 内容を読み、同意する場合は [同意します] をチェックし、[完了] をクリックします。
※同意しない場合はインストールできません。
更新プログラムのダウンロード、インストールが実行されますのでしばらくお待ちください。



6 更新プログラムのダウンロード、インストールが実行されますのでしばらくお待ちください。
右の画面が表示されたら、[今すぐ再起動] をクリックします。



再起動すると、Windows Update は 完了です。

RAID 設定

本製品で設定できる RAID モード

HDL-Z2WS シリーズの場合

RAID1 (出荷時設定)	2つのハードディスクに同じデータを同時に書き込むため、万一、一方のハードディスクが故障してもデータは安全に保護されます。
RAID0	2つのハードディスクを1つのボリュームとして認識します。 データ保護機能はありませんが、大容量と高速性を追求したモードです。

HDL-Z4WS シリーズの場合

RAID5 (出荷時設定)	4つのハードディスクを1つのボリュームとして認識、パリティとともに分散記録します。 ディスク1台の故障に対応するデータ保護機能、容量、高速性のバランスのよいモードです。
RAID0	4つのハードディスクを1つのボリュームとして認識します。 データ保護機能はありませんが、大容量と高速性を追求したモードです。

RAID モードを変更する

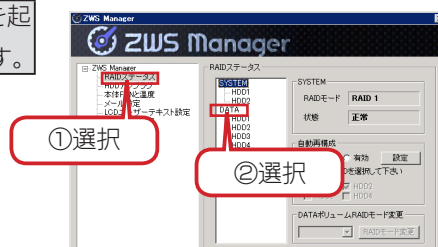
ご注意

- RAID モードを変更する前に、データをバックアップしてください。RAID モード変更時にデータは消去されます。
- 本製品のシステム領域の RAID モードは変更できません。

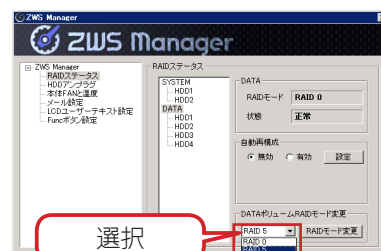
「ZWS Manager」で設定します。

「ZWS Manager」については、【ZWS Manager】(64 ページ)をご覧ください。

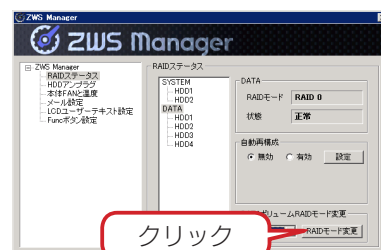
- 1 タスクトレイのアイコンから [ZWS Manager] を起動し、[RAID ステータス] → [DATA] を選択します。



- 2 変更する RAID モードを選択します。



- 3 [RAID モード変更] をクリックします。
選択した [RAID モード] への変更を開始します。([状態] が再構築中になります。)



これで RAID モードの変更は完了です。

iSCSI 設定 (HDL-Z4WS シリーズのみ)

iSCSI Target 機能により、本製品上に作成した仮想ディスク (VHD) を iSCSI ストレージとして、提供することができます。

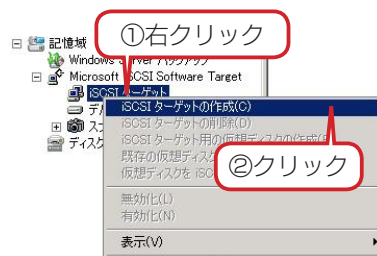
iSCSI Target の準備

ご注意

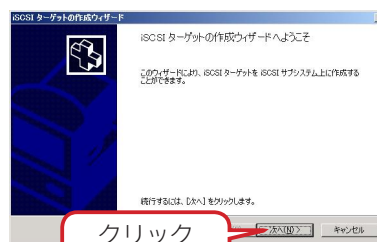
- 事前にファイアウォールの設定にて、TCP3260 番 (受信のみで可) を開ける必要があります。

1 [スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャ] をクリックします。

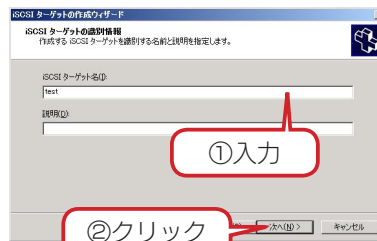
2 [記憶域] → [Microsoft iSCSI Software Target] を開き、[iSCSI ターゲット] 右クリックし、[iSCSI ターゲットの作成] をクリックします。



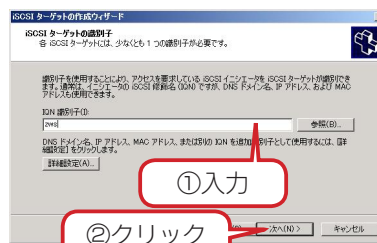
3 [次へ] ボタンをクリックします。



4 [iSCSI ターゲット名] に任意の名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。
※ [説明] は必要に応じて入力します。



5 iSCSI イニシエータの IQN (イニシエータ修飾名) を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。
※ IQN が不明な場合は、[詳細設定] からイニシエータ側パソコンの DNS ドメイン名、IP アドレス、MAC アドレスなどを指定することもできます。



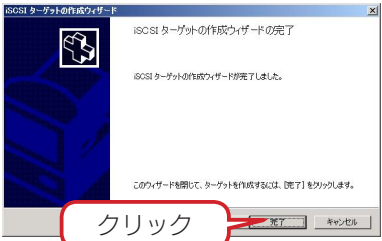
はじめに

初期設定

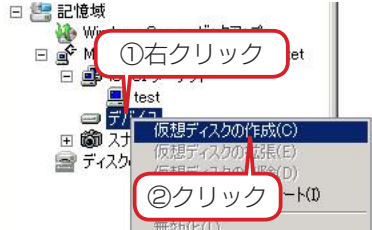
詳細設定

資料

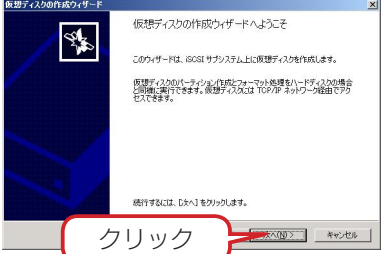
6 [完了] ボタンをクリックします。



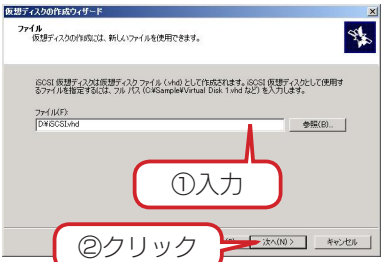
7 [デバイス] 右クリックし、[仮想ディスクの作成] をクリックします。



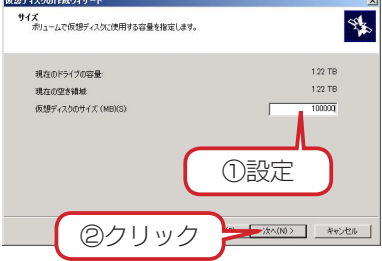
8 [次へ] ボタンをクリックします。



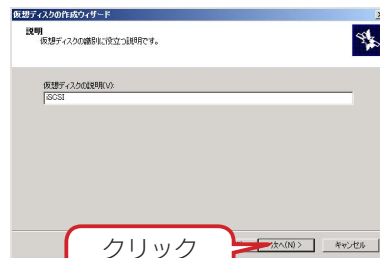
9 ファイル欄に作成する仮想ディスク名を、ドライブ名を含むフルパスで入力し、[次へ] ボタンをクリックします。
 ※画面の例は、本製品のシステムドライブ (D:) 上に、iSCSI.vhd という仮想ディスクを作成する例です。
 D:¥iSCSI.vhd



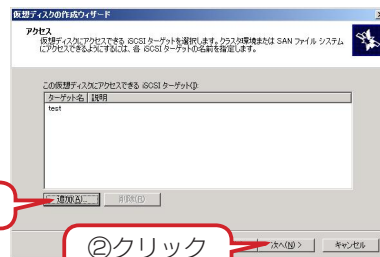
10 仮想ディスクのサイズを MB 単位で設定し、[次へ] ボタンをクリックします。



- 11 必要に応じて仮想ディスクの説明を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



- 12 [追加] ボタンをクリックし、手順 1～6 で作成したターゲットを追加し、[次へ] ボタンをクリックします。



iSCSI イニシエータの準備

Windows Vista 以前の OS の場合は、Microsoft のダウンロードサイトより iSCSI イニシエータをダウンロードの上、iSCSI Target のディスクを使用する環境へインストールしてください。

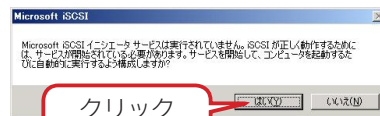
※以下の画面は Windows Storage Server 2008 での設定画面になります。

- 1 [スタート] → [管理ツール] → [iSCSI イニシエータ] をクリックします。

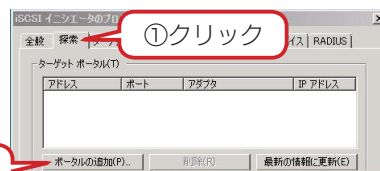
参考

- Windows 7、Vista で iSCSI イニシエータを開くには、[スタート] → [プログラムとファイルの検索] の入力欄に [iSCSI] と入力し、[Enter] キーを押します。

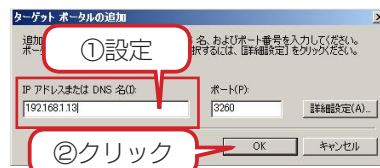
- 2 メッセージが表示された場合は、[はい] を選択し、iSCSI イニシエータを起動します。



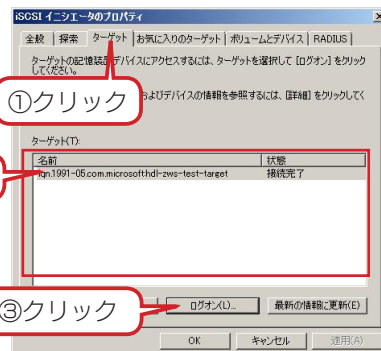
- 3 iSCSI イニシエータのプロパティを開き、[探索] タブ → [ポータル追加] ボタンをクリックします。



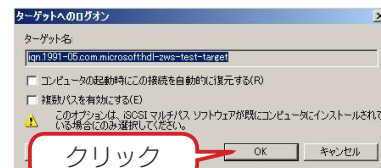
- 4 iSCSI Target 側サーバーの IP アドレスまたは DNS 名を設定し、[OK] ボタンをクリックします。



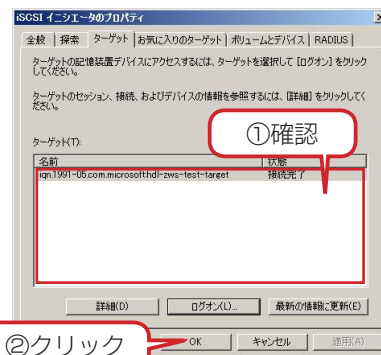
5 [ターゲット] タブをクリックし、検出されたターゲットに表示された IQN を選択して、[ログオン] ボタンをクリックします。



6 [OK] ボタンをクリックします。



7 接続したターゲットの IQN の状態が「接続完了」になっていることを確認して、[OK] ボタンをクリックします。



以上で iSCSI イニシエータの設定は完了です。

ディスクの管理を開き、接続した iSCSI Target 側の仮想ディスクが追加されたことを確認してください。

※ディスクの初期化画面が表示された場合は、ディスクを初期化する必要があります。表示された画面の指示にしたがって、ディスクの初期化を行ってください。

日時設定

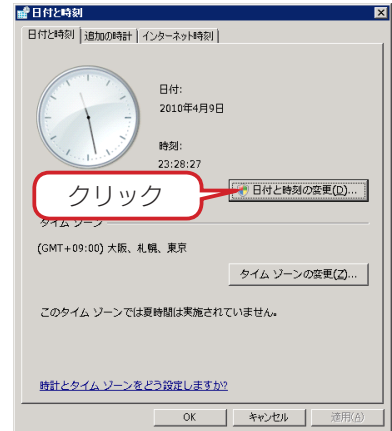
- 1 タスクトレイに表示されている時刻をクリックし、[日付と時刻の設定の変更]をクリックします。



- 2 [日付と時刻の変更] ボタンをクリックします。

参考

- インターネットに接続されている環境の場合は、[インターネット時刻] タブをクリックし、[設定の変更]をクリックして、[今すぐ更新]を選択すると自動で時刻を取得することができます。



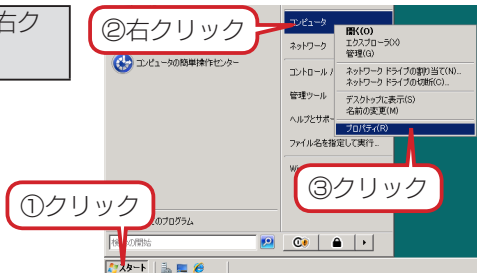
- 3 現在の[日時]と[時刻]を設定し、[OK] ボタンをクリックします。



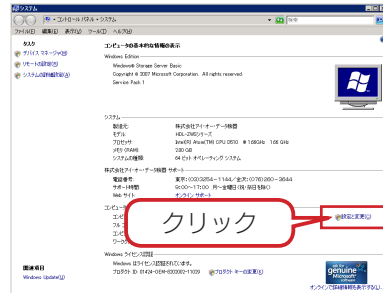
以上で日時設定は完了です。

サーバー名、ワークグループ、ドメインの変更

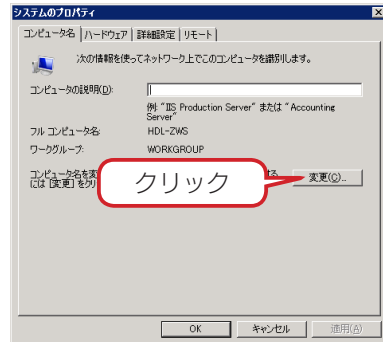
1 [スタート]をクリックし、[コンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



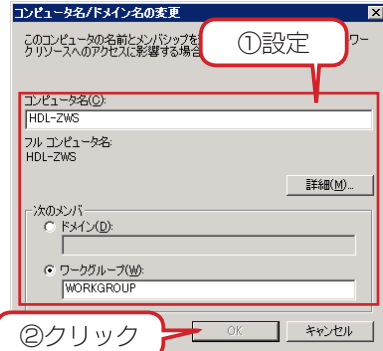
2 [コンピュータ名、ドメインおよびワークグループの設定]の[設定と変更]をクリックします。



3 [変更] ボタンをクリックします。



4 変更が必要な項目を設定し、[OK] ボタンをクリックします。



以上でサーバー名、ワークグループ、ドメインの変更は完了です。

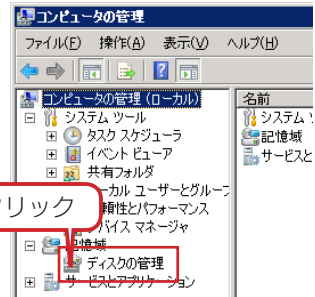
ボリュームのフォーマット

ご注意

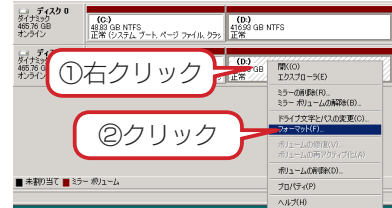
- フォーマットを実行すると、ハードディスク内のデータはすべて消去されます。フォーマットする前に必ずバックアップをおとりください。

1 [スタート]→[管理ツール]→[コンピュータの管理]をクリックします。

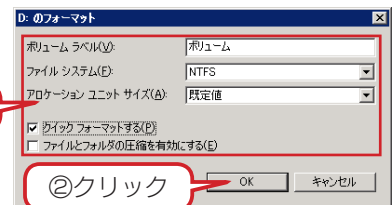
2 [ディスクの管理]をクリックします。



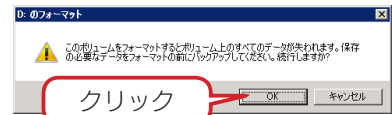
3 フォーマットをするボリュームを右クリックし、[フォーマット]を選択します。



4 必要に応じて設定し、[OK] ボタンをクリックします。



5 [OK] をクリックします。
フォーマットを開始します。



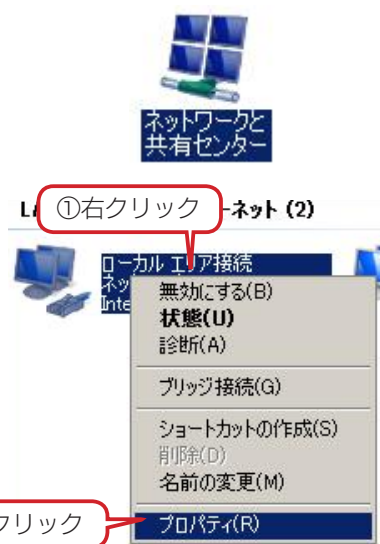
以上でフォーマットは完了です。

IP アドレス設定

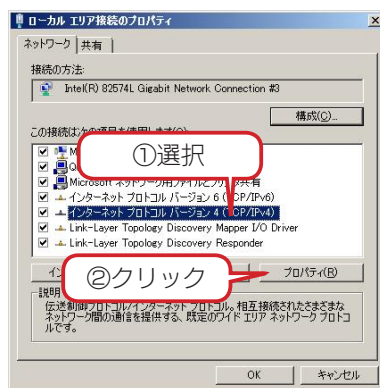
1 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックし、
[ネットワークと共有センター]を開きます。

2 [ネットワーク接続の管理]をクリックします。

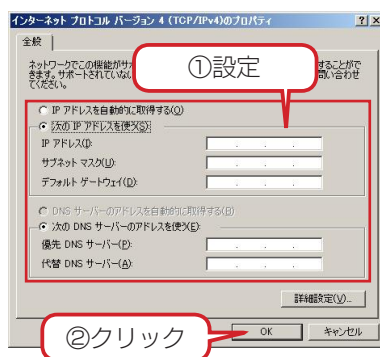
3 [ローカルエリア接続]を右クリックし、[プロパティ]
をクリックします。



4 [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/
IPv4)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリック
します。



5 本製品を接続するネットワーク環境に適した IP アド
レスを設定し、[OK] ボタンをクリックします。



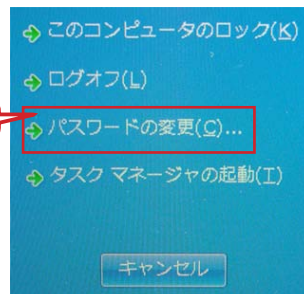
以上で IP アドレスの設定は完了です。

パスワード変更

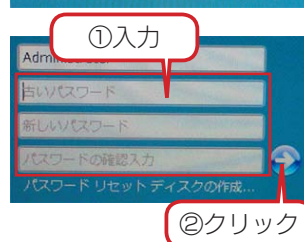
管理者パスワードは、セキュリティのため出荷時設定から変更することをおすすめします。

- リモートデスクトップ接続の場合
Administrator でログオン後、[スタート]→[Windows セキュリティ]をクリックします。
●【設定方法③】(17 ページ) の場合
Administrator でログオン後、キーボードの [Ctrl]+[Alt]+[Delete] キーを押します。

- パスワードの変更をクリックします。



- 以下のように入力し、[→]をクリックします。
古いパスワード：admin
新しいパスワード：任意のパスワード
新しいパスワードの確認入力：任意のパスワード
出荷時パスワードは「admin」です。
Administrator のパスワードを変更された場合は、変更後のパスワードを入力してください。



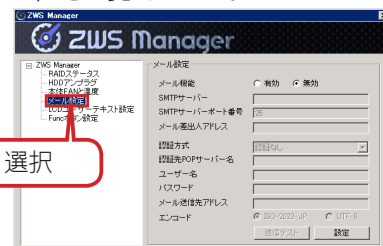
以上でパスワードの変更は完了です。

メール設定

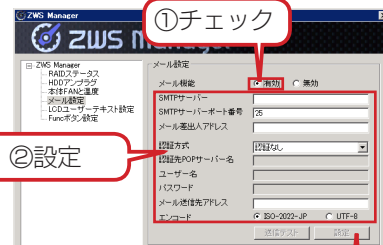
「ZWS Manager」で設定します。

「ZWS Manager」については、【ZWS Manager】(64 ページ) をご覧ください。

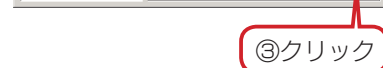
- タスクトレイのアイコンから [ZWS Manager] を起動し、[メール設定] を選択します。



- [メール設定] で [有効] にチェックをつけます。
各項目を必要に応じて入力、選択し、[設定] ボタンをクリックします。



以上でメール設定は完了です。

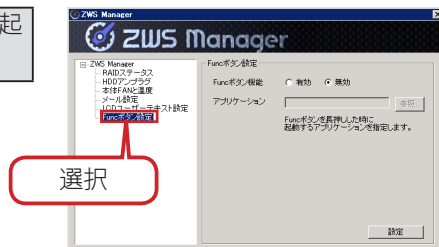


Func ボタン設定

「ZWS Manager」で設定します。

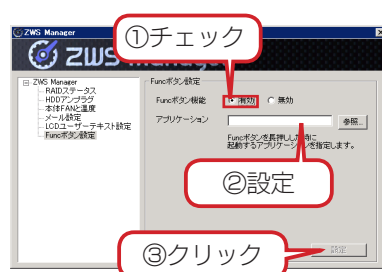
「ZWS Manager」については、【ZWS Manager】(64 ページ) をご覧ください。

1 タスクトレイのアイコンから [ZWS Manager] を起動し、[Func ボタン設定] を選択します。



2 [Func ボタン設定] で [有効] にチェックをつけ、関連付けるアプリケーションのパスを入力し、[設定] ボタンをクリックします。

Func. ボタンに登録できるアプリケーションは、バッチファイルなどコマンドラインで操作できるもののみとなります。



以上で Func ボタンの設定は完了です。

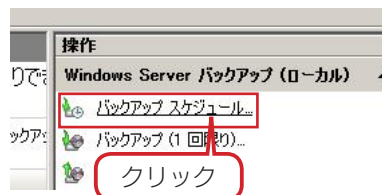
バックアップ設定

ご注意

● Windows Server バックアップでは、2TB 以上のボリュームのバックアップはできません。バックアップソフトのご利用をおすすめします。

1 [スタート] → [管理ツール] → [Windows Server バックアップ] をクリックします。

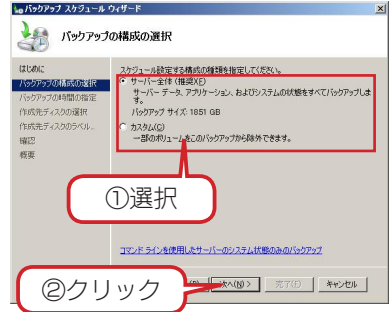
2 画面右側 [操作] ウィンドウ内の [バックアップスケジュール] をクリックします。



3 表示された画面の [次へ] ボタンをクリックします。

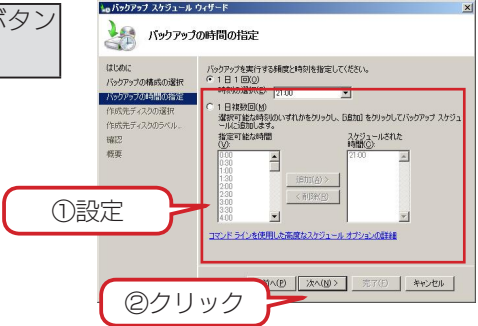


4 バックアップ構成を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
※ここでは [サーバー全体] を選択します。



はじめに

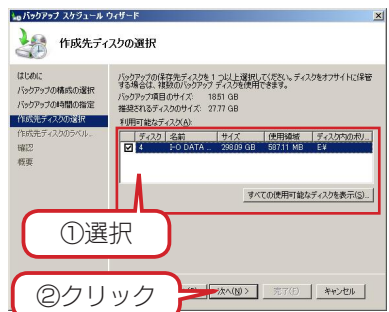
5 バックアップの時刻と頻度を設定し、[次へ] ボタンをクリックします。



初期設定

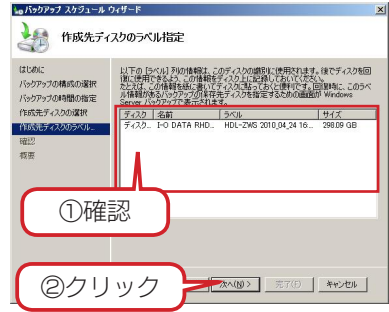
6 バックアップの保存先を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

ご注意
●バックアップ先のハードディスクはフォーマットされます。
必要なデータがある場合は、事前に、バックアップ先のハードディスクのデータをバックアップしてください。



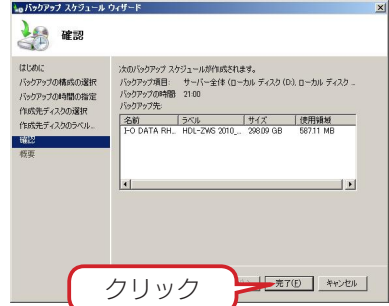
詳細設定

7 設定内容を確認し、[次へ] ボタンをクリックします。



資料

8 [完了] ボタンをクリックします。



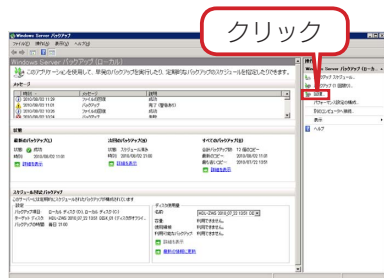
以上でバックアップ設定の作成は完了です。

回復方法

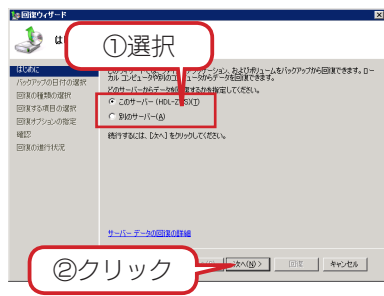
バックアップしたファイルおよびフォルダーを、本製品へ回復する方法を説明します。

1 [スタート]→[管理ツール]→[Windows Server バックアップ]をクリックします。

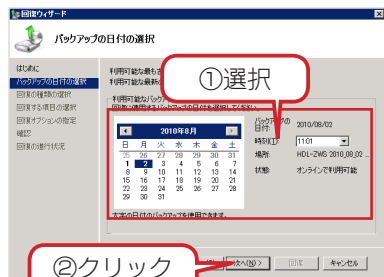
2 画面右側 [操作] ウィンドウ内の [回復] をクリックします。
→回復ウィザードが表示されます。



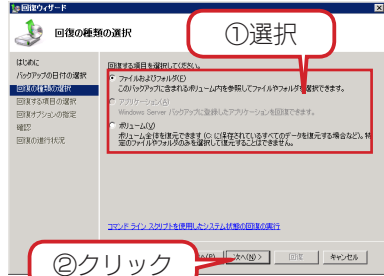
3 どのサーバーからデータを回復するかを選択し、[次へ]をクリックします。
※ここでは、[このサーバー]を選択します。



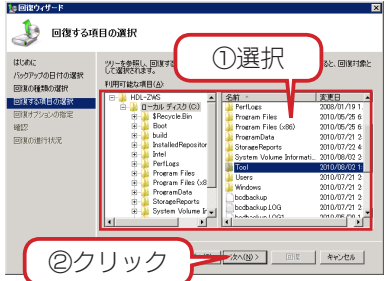
4 回復に使用する日付、時刻を選択し、[次へ]をクリックします。



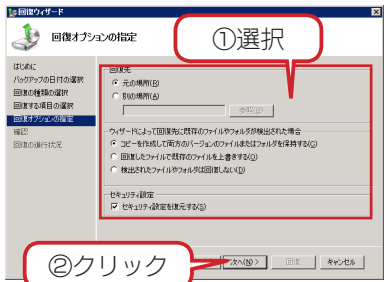
5 回復する項目を選択し、[次へ]をクリックします。
※ここでは、[ファイルおよびフォルダ]を選択します。



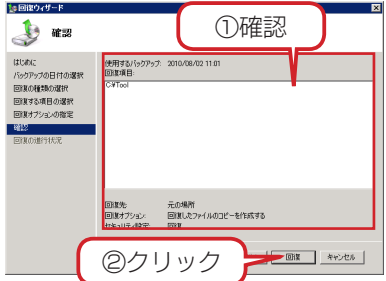
6 ツリーを参照し、回復するファイルまたはフォルダーを選択し、[次へ]をクリックします。
※ここでは、C: ¥Tool フォルダを指定しています。



7 回復オプションを選択し、[次へ]をクリックします。



8 設定した内容が表示されますので、内容を確認し、[回復]をクリックします。
→回復が開始されますので、完了するまでお待ちください。



完了すると、ウィザード内の [状態] へ完了のメッセージが表示されます。
[閉じる]をクリックし、復元されたファイルまたはフォルダーを確認してください。



はじめに

初期設定

詳細設定

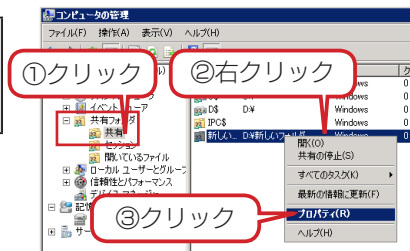
資料

ユーザー数制限

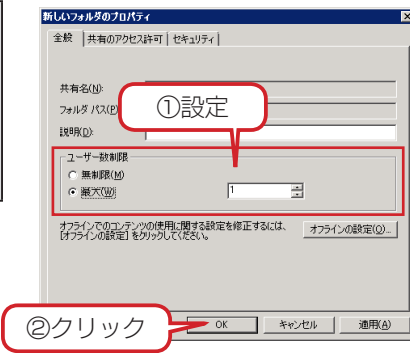
共有リソースに一度にアクセスできるユーザー数を制限する機能です。

1 [スタート]→[管理ツール]→[コンピュータの管理]をクリックします。

2 [共有フォルダ]の[共有]をクリックし、制限する共有フォルダを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。



3 [ユーザー数制限]の[最大]をクリックし、制限する人数を入力して、[OK]ボタンをクリックします。
以下の値まで設定できます。
HDL-Z2WS シリーズ：30
HDL-Z4WS シリーズ：50



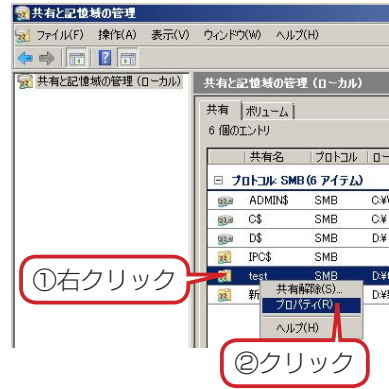
以上でユーザー制限は完了です。

アクセス許可

共有リソースにアクセス許可を割り当てると、ユーザーのアクセスを制限することができます。共有リソースへのアクセス許可には、NTFS アクセス許可と共有アクセス許可があります。

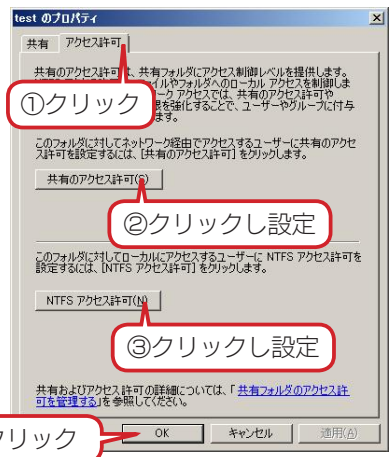
1 [スタート]→[管理ツール]→[共有と記憶域の管理]をクリックします。

2 アクセス許可設定をする共有フォルダーを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



3

- ① [アクセス許可] タブをクリックします。
- ② [共有のアクセス許可] ボタンをクリックし、設定します。
- ③ [NTFS アクセス許可] ボタンをクリックし、設定します。
- ④ [OK] ボタンをクリックします。



以上でアクセス許可の設定は完了です。

シャドウコピー設定

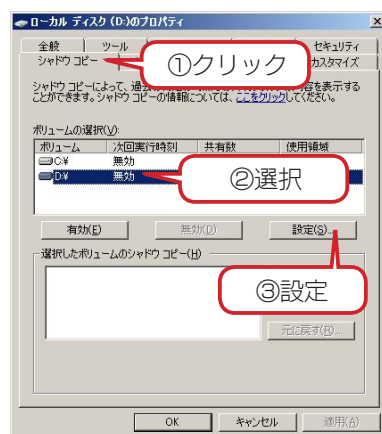
共有フォルダーのシャドウコピー (Shadow Copies of Shared Folders : SCSF) は、ボリュームシャドウコピーサービスを使用して、ファイルの任意の時点でのコピー (シャドウコピー) を作成するスナップショット技術です。

1 [スタート]→[管理ツール]→[コンピュータの管理]をクリックします。

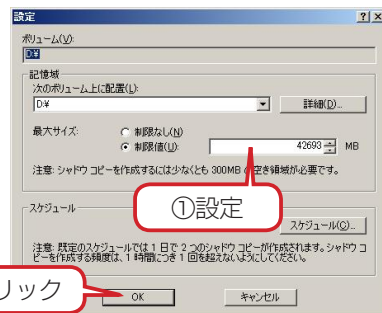
2 [ディスクの管理]をクリックし、シャドウコピーの設定をするボリュームを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



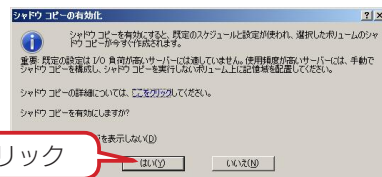
3 [シャドウコピー] タブをクリックし、[ボリュームの選択] からシャドウコピーの設定をするボリュームを選択し [設定] ボタンをクリックします。



4 シャドウコピーの最大サイズを設定し、[OK] ボタンをクリックします。



5 [有効] をクリックし、表示された画面で [はい] ボタンをクリックします。



以上でシャドウコピーの設定は完了です。

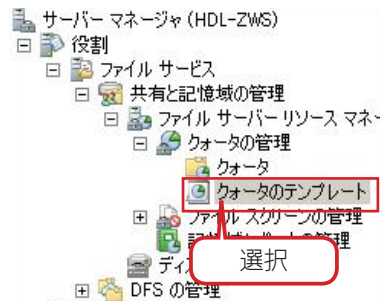
クォータ管理 (HDL-Z4WS シリーズのみ)

クォータは、ディレクトリ単位で、ユーザーが使用できるディスクサイズを制限する機能です。クォータにより、ユーザーは割り当てられたディスクサイズ以上の領域をそのディレクトリで使用することができなくなります。

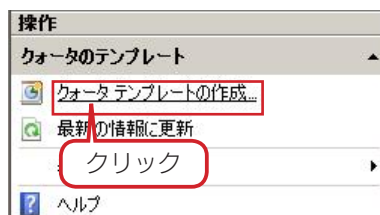
クォータテンプレートを作成する

1 [スタート]→[管理ツール]→[サーバーマネージャ]をクリックします。

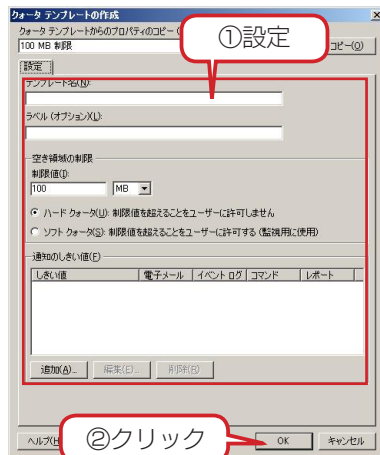
2 [役割]→[ファイルサービス]→[共有と記憶域の管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータのテンプレート]を選択します。



3 右側の[操作]ウィンドウの[クォータテンプレートの作成]をクリックします。



4 クォータテンプレートの設定を行い、[OK] ボタンをクリックします。



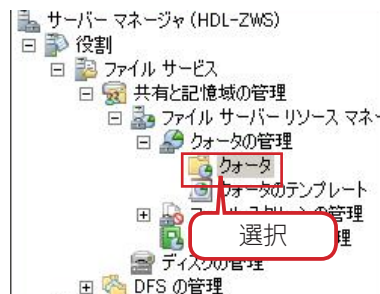
テンプレート名	任意の名前を入力します。
ラベル	必要に応じて入力します。
空き領域の制限	制限値を入力し、[ハードクォータ]または[ソフトクォータ]を選択します。
通知のしきい値	設定したしきい値に達するとメールで通知できる機能です。[追加]ボタンをクリックし、必要に応じて設定します。

以上でクォータテンプレートの作成は完了です。

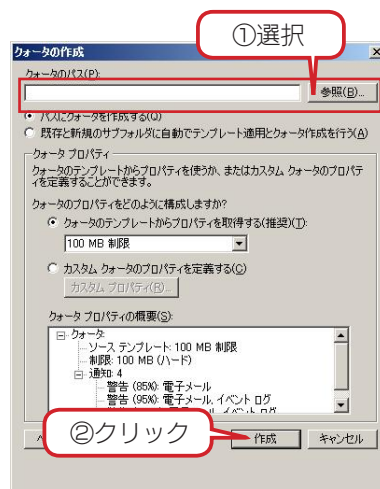
クォータを作成する

1 [スタート]→[管理ツール]→[サーバーマネージャ]をクリックします。

2 [役割]→[ファイルサービス]→[共有と記憶域の管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータ]を選択します。



3 [クォータのパス]でクォータテンプレートを選択し、[作成]ボタンをクリックします。



以上でクォータの作成は完了です。

DFS の設定

[DFS の管理] コンソールは、DFS 名前空間と DFS レプリケーションの管理を行う MMC スナップインです。[DFS の管理] コンソールは、ウィザードを使用して、これらの設定を行うことができます。また、管理アクセス許可を、任意のユーザーに割り当てることで DFS の管理タスクを委任することもできます。

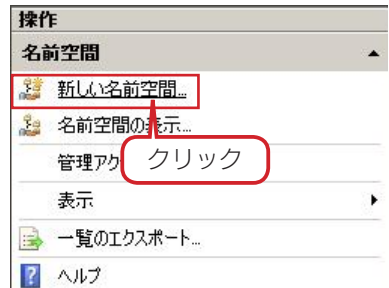
名前空間を作成する

1 [スタート]→[管理ツール]→[サーバーマネージャ]をクリックします。

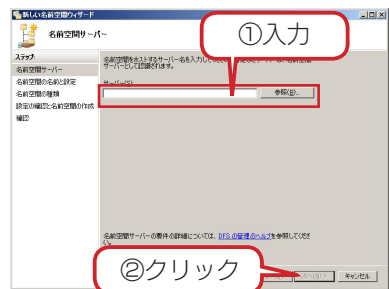
2 [役割]→[ファイルサービス]→[DFS の管理]→[名前空間]を選択します。



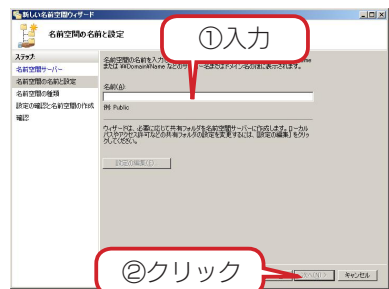
3 [操作] ウィンドウの [新しい名前空間] をクリックします。
[新しい名前空間ウィザード] 画面が表示されます。



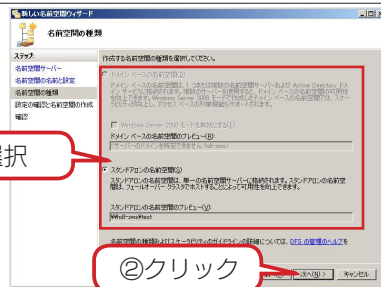
4 [サーバー] に名前空間サーバーになるコンピュータ名を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



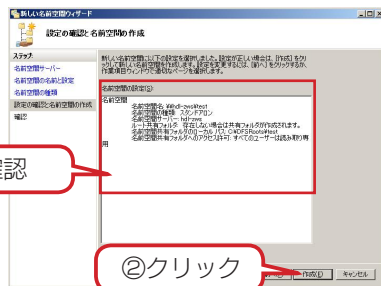
5 [名前] に名前空間ルート名を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



6 [ドメインベースの名前空間] または [スタンドアロンの名前空間] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



7 内容を確認し、[作成] ボタンをクリックします。



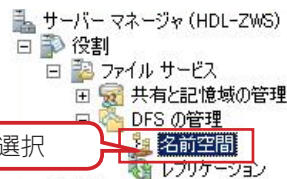
8 [閉じる] ボタンをクリックします。

以上で名前空間の作成は完了です。

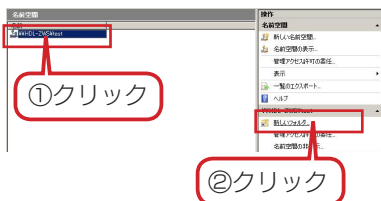
名前空間フォルダを作成する

1 [スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャ] をクリックします。

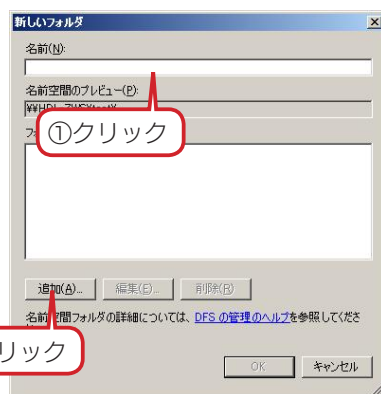
2 [役割] → [ファイルサービス] → [DFS の管理] → [名前空間] を選択します。



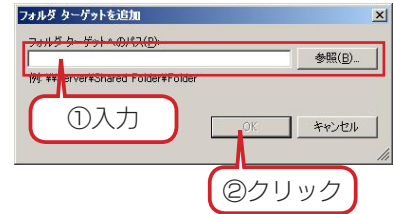
3 [名前空間] ウィンドウの [[名前空間ルート名]] をクリックし、[操作] ウィンドウの [新しいフォルダ] をクリックします。



4 [名前] に名前空間フォルダの仮想的なフォルダ名を入力し、[追加] ボタンをクリックします。



- 5 [フォルダターゲットへのパス] にフォルダターゲットへの UNC パスを入力し、[OK] ボタンをクリックします。



以上で名前空間フォルダの作成は完了です。

DFS レプリケーションを設定する (HDL-Z4WS シリーズのみ)

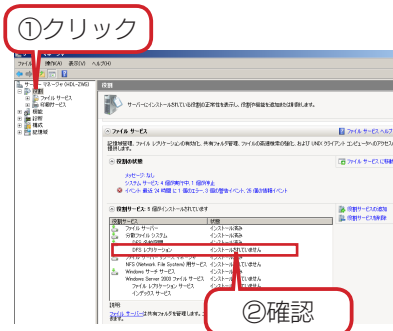
ご注意

- DFS レプリケーション (DFS-R) 機能は、本製品同士のみでは利用できません。以下の環境が必要になります。
 - ① Windows Server 2003 R2 以降の Active Directory 環境に参加していること。
 - ② レプリケーショングループのメンバ (本製品) が、同一フォレストにあること。

● DFS レプリケーションをインストールする

- 1 [スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャ] をクリックします。

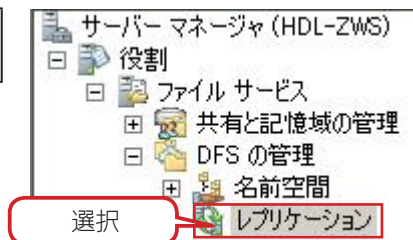
- 2 [役割] を選択し、[役割サービス] の [DFS レプリケーション] の状態を確認します。
- 「インストール済み」と表示されている場合は、以下の「DFS レプリケーションの設定」にお進みください。
 - 「インストールされていません」と表示されている場合は、右側の [役割サービスの追加] をクリックし、「DFS レプリケーション」をインストールしてから、以下の「DFS レプリケーションの設定」にお進みください。



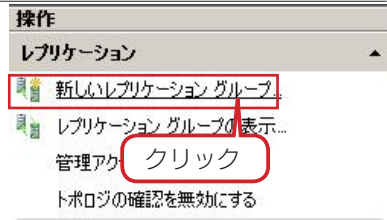
● DFS レプリケーションを設定する

- 1 [スタート] → [管理ツール] → [サーバーマネージャ] をクリックします。

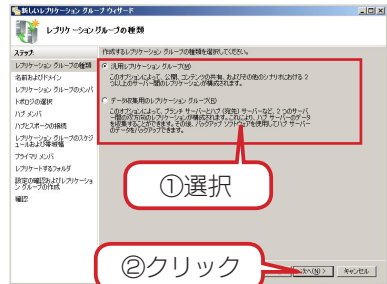
- 2 [役割] → [ファイルサービス] → [DFS の管理] → [レプリケーション] を選択します。



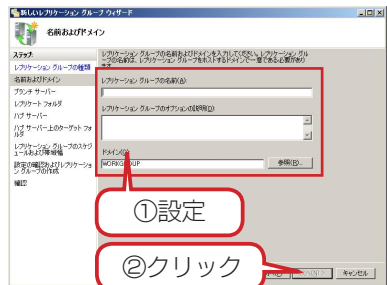
3 [操作] ウィンドウの [新しいレプリケーショングループ] をクリックします。



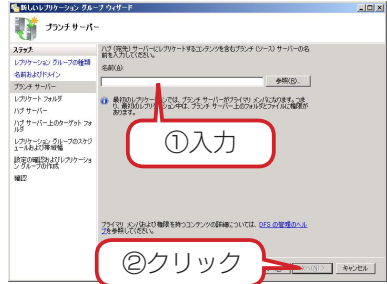
4 ・レプリケーションを行うファイルサーバーが2台の場合は、[データ収集用のレプリケーショングループ] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
 ・レプリケーションを行うファイルサーバーが2台以上ある場合は、[汎用レプリケーショングループ] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
 ※画面例では、[データ収集用のレプリケーショングループ] を選択します。



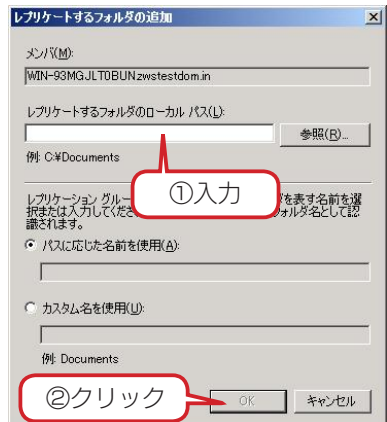
5 [レプリケーショングループの名前] にレプリケーショングループの名前を任意で入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



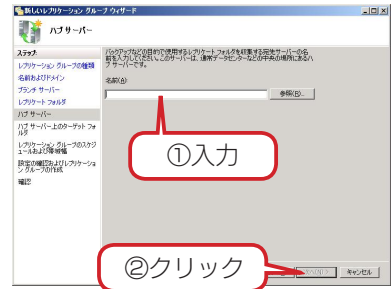
6 [名前] にレプリケーション開始時に元となるファイルサーバーの名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



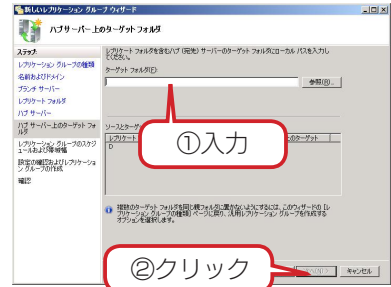
7 [レプリケートするフォルダのローカルパス] にレプリケートするフォルダのパスを入力し、[OK] ボタンをクリックします。



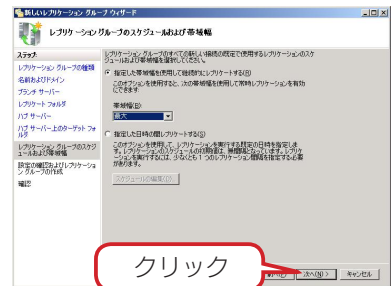
- 8 [名前] にもう 1 台のファイルサーバーの名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



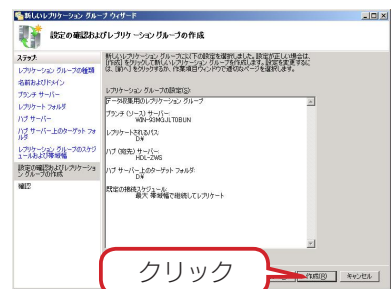
- 9 [ターゲットフォルダ] にもう 1 台のファイルサーバーでレプリケートするフォルダーのパスを入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



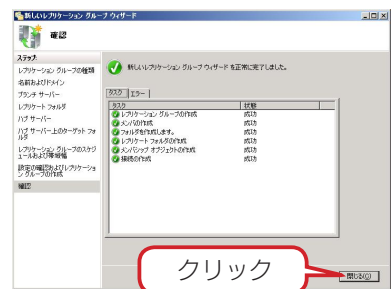
- 10 WAN 接続などの帯域幅に余裕がない場合、帯域幅の調整とレプリケーションの実行スケジュールを設定することができます。
必要に応じて設定し、[次へ] ボタンをクリックします。



- 11 内容を確認し、[作成] ボタンをクリックします。



- 12 [閉じる] ボタンをクリックします。



以上で DFS レプリケーションの設定は完了です。

カートリッジの交換方法

本製品の電源が入っている状態で、HDD アンプラグを行うことで、障害が発生したカートリッジの交換ができます。障害が発生したハードディスクは、[HDD] ランプが赤点灯します。[HDD] ランプをご確認の上、以下の説明通りに行ってください。

本製品に対する指定容量のカートリッジについては、【オプション品について】(8 ページ)をご確認ください。

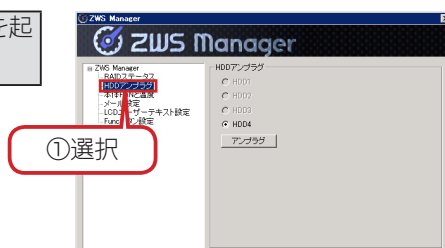
ご注意

- RAID 構成が崩壊した本製品のデータを復旧することはできません。そのため、万が一に備えて定期的にバックアップをお取りください。
- カートリッジ (ハードディスク) は、障害発生時以外には取り外さないでください。不用意に取り外すと冗長性が失われたり、RAID 構成が崩壊しすべてのデータを失い、修復不能な状態となる危険性があります。(各 RAID モードの仕組みについては、【RAID 設定】(32 ページ)をご覧ください。)

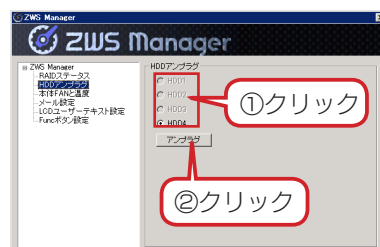
[ステップ1] HDD アンプラグを行う

[ZWS Manager] で [HDD アンプラグ] を行います。

- 1 タスクトレイのアイコンから [ZWS Manager] を起動し、[HDD アンプラグ] を選択します。



- 2 [HDD] ランプが赤点灯している障害が発生したハードディスク番号を選択し、[アンプラグ] ボタンをクリックします。
※画面は、HDD4 が障害発生した場合の例です。



ご注意

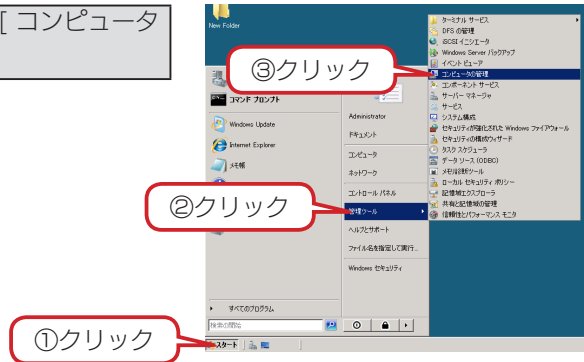
- RAID1/RAID5 の場合、一度に取り外しできるハードディスクの数は 1 台のみです。
2 台以上取り外すと RAID が崩壊し、登録されているデータを失うことがあります。

ご注意

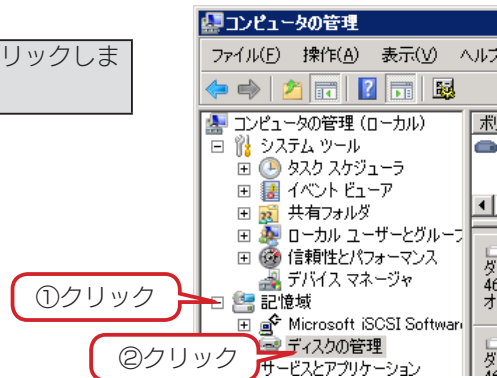
- 右のような画面が表示された場合、[アンプラグ]処理ができていません。本製品の電源を切り、【[ステップ2] カートリッジを外す】(58 ページ)にお進みください。



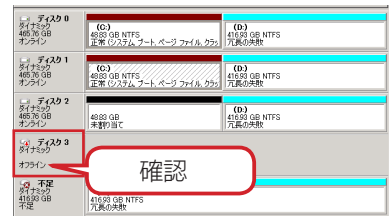
- 3** 順に [スタート] → [管理ツール] → [コンピュータの管理] をクリックします。



- 4** 順に [記憶域] → [ディスクの管理] をクリックします。



- 5** 手順2で[アンプラグ]処理を行った障害の発生したハードディスクが、オフラインになっていることを確認します。



次に、カートリッジを外します。次ページをご覧ください。

はじめに

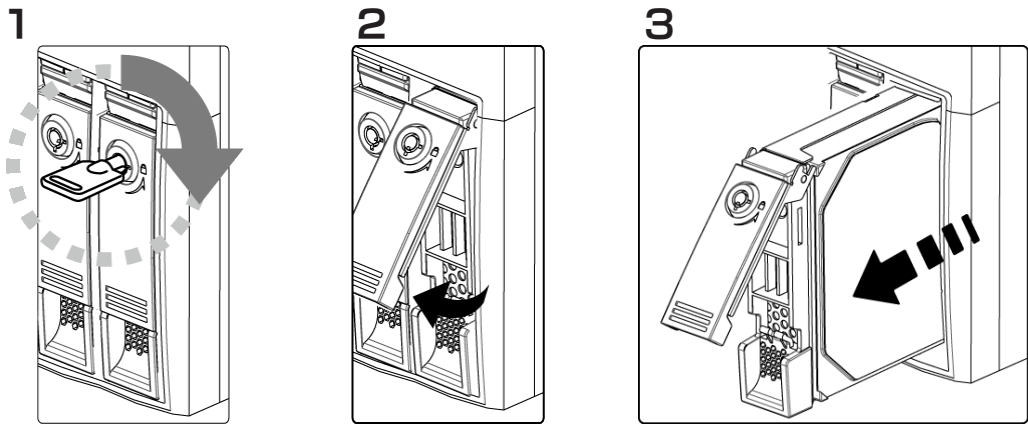
初期設定

詳細設定

資料

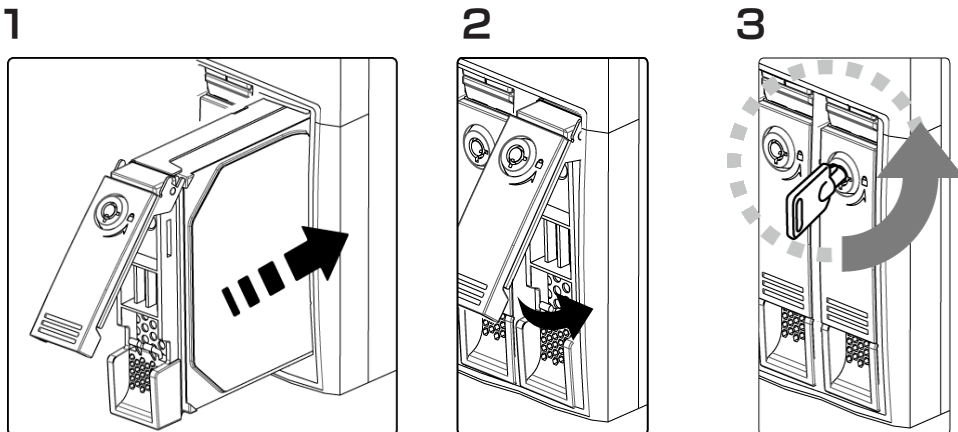
[ステップ 2] カートリッジを外す

- 1 図 1 のように、添付のロックキーを [カートリッジ固定ロック] に合わせ横向きに挿し、時計回りにまわして、[UNLOCK] にします。(ロックキーは、縦向きになります。)
- 2 取り外すカートリッジの着脱レバーを上にあげます。
- 3 カートリッジを手前に引いて、取り出します。



[ステップ 3] カートリッジを取り付ける

- 1 カートリッジをスロットの奥まで挿入します。
- 2 着脱レバーを "カチッ" と音がなるまで下におろし、本製品に取り付けます。
- 3 図 1 のように、添付のロックキーを [カートリッジ固定ロック] に合わせ縦向きに挿し、反時計回りにまわして、[LOCK] にします。(ロックキーは、横向きになります。)



以上で交換は終了です。取り付け完了後、[ZWS Manager] の [自動再構成] が [有効] に設定されている場合は、自動的に RAID の再構築を開始します。

出荷時状態に戻す

ご注意

- システムリカバリーを行うと、本製品のシステムドライブ (C:) は完全に出荷時の状態に戻ります。保存されていたデータや、設定情報はすべて失われますので、必要なデータや設定情報は必ずバックアップを行ってください。
- C:\WINDOWS フォルダが存在しない場合は、すべてのドライブを消去した後にリカバリーが実行されますので、必ずDドライブのバックアップも行ってください。
- システムリカバリー後、システム領域の再構築が行われます。

ステップ1 準備する

- 1 次の機材をご用意ください。
「ディスプレイ」、「USB キーボード」、「本製品添付のサポート USB メモリー」
- 2 本製品の電源を OFF にします。
- 3 本製品の VGA コネクタにディスプレイを接続します。
- 4 本製品の USB ポートに USB キーボードを接続します。
- 5 本製品の USB ポートにサポート USB メモリーを接続します。
サポート USB メモリー以外の、USB ハードディスクおよび eSATA ハードディスクは接続しないでください。

次ページの【ステップ2】へお進みください。

ステップ2 出荷時設定に戻す

1	サポート USB メモリーを接続し、本製品の電源を入れます。ロゴが表示され、サポート USB メモリーからリカバリープログラムが起動しますのでしばらくお待ちください。
----------	---

参考

- リカバリープログラムが起動しない場合、BIOS 設定の変更が必要な場合があります。

以下の手順で BIOS 設定を変更してください。

- ①本製品の電源投入直後より、[Delete] キーを押しつつけて、BIOS 設定画面を起動します。
- ②カーソルキーで [Boot] → [Boot Device Priority] を選択し、[Enter] キーを押します。
- ③ [1st Boot Device] を選択し、[Enter] キーを押します。
- ④ [USB : I-O EasyDisk KIT R] を選択し、[Enter] キーを押します。
- ⑤ [Esc] キー 1 回だけ押し、カーソルキーで [Exit] → [Save Changes and Exit] を選択し、[Enter] キーを 2 回押します。

以上で BIOS 設定は変更されました。ステップ 2 手順 1 より再度実行してください。

2	リカバリープログラムが起動し、使用許諾が表示されます。 キーボードの 1 を入力し [Enter] キーを押します。 (「1- 上記を承諾してリカバリーを実行する」を選択します。)
----------	--

3	「本当にリカバリーを実行してよろしいですか? (yes/no)」で、[yes] と入力して、[Enter] キーを押します。 →リカバリーが開始されます。システムのリカバリーには 15 分～ 30 分程度必要です。
----------	--

4	「リカバリーが正常に完了しました。サポート USB メモリーを抜いてください。 何かキーを押すと再起動します。」 と表示されたら、システムリカバリーは完了です。サポート USB メモリーを本製品から取り外し、何かキーを押します。 →本製品が再起動します。
----------	--

出荷時設定

コンピュータ名	HDL-ZWS
ワークグループ名	WORKGROUP
IP アドレス	自動取得
DNS サーバーアドレス	自動取得
RAID 状態	HDL-Z2WS シリーズ : RAID1 HDL-Z4WS シリーズ : RAID5

ランプやLCDの状態

カテゴリ	LCD表示内容	LCD表示例	STATUS	HDD	ブザー ^{※2}	動作内容	対処
通常稼働時 ^{※1}	RAIDモード RAID状態	RAID MODE RAID x または Unknown Mode	緑点灯	緑点灯	なし	現在のRAIDモードの表示	「Unknown Mode」と表示された場合は、ボリュームが複数認識されています。ボリュームを2つに戻してRAIDモードが表示されるか確認してください。
	IPアドレス 設定したIPアドレス	IP ADDRESS x 192.168.0.1	緑点灯	緑点灯	なし	現在のIPアドレスの表示	—
	HDD容量 空き容量 / 全容量	C : CAPACITY xxxxx/yyyyyGB	緑点灯	緑点灯	なし	ドライブごとのHDD容量の表示	—
	ホスト名 設定したホスト名	HOST NAME HDL-ZWS	緑点灯	緑点灯	なし	設定したホスト名を表示	—
	日付時刻 今の時間を表示	DATE 10/05/06 17 : 16	緑点灯	緑点灯	なし	現在の時刻を表示	—
	ユーザーテキスト設定 (1行目) ユーザーテキスト設定 (2行目)	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	緑点灯	緑点灯	なし	ユーザー設定を表示	—
RAID再構築	RAIDモード RAID再構築中	RAID MODE RAID Rebuild	緑点滅	緑点滅	ピロツ	RAID再構築中のとき	RAIDを再構築中です。再構築が完了するまでHDDの抜き差しを行わないでください。
エラー	システムエラー デグレード	SYSTEM ERROR RAID Degraded	赤点滅	該当HDD 赤点灯	ビッピッ、 ビッピッ …	デグレード発生時	至急ボリュームのバックアップを取ってください。構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。
	システムエラー RAID崩壊	SYSTEM ERROR RAID Crash	赤点滅	全HDD 赤点灯	ピーポー、 ピーポー …	RAID崩壊時	至急ボリュームのバックアップを取ってください。ボリュームに対してチェックディスクを実行し、ファイルシステムに問題がないことを確認してください。ログ・メールより構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。ボリュームにアクセスできなくなった場合は、ボリュームを再構築してください。
	システムエラー システムなし	SYSTEM ERROR SYSTEM NotFound	緑点灯	認識したHDD のみ緑点灯	ビッ、 ビッ、 ビッ、 ビッ、…	起動HDDがない時	起動HDDが接続されていません。HDDが正常に接続されていることを確認してください。
	システムエラー 温度異常	SYSTEM ERROR Heat Error	赤点灯	緑点灯	なし	温度異常の時	設置環境を確認し、FANからの排熱が逃げ易い環境であることを確認してください。温度異常を検知したら自動的に電源が切れますので、再起動後に再び同じ現象が起きたらFANが正常に稼働していることを確認してください。

※1 通常起動中は「SELECT」ボタンで、表示内容を変更でき、「ENTER」ボタンで、バックライトのON/OFFが行えます。

※2 RAID状態に変化があったときにブザーが鳴ります。

はじめに

初期設定

詳細設定

資料

ログ、メール一覧

ログ・メール内容	メールタイトル	概要	対処
内蔵スロット x のディスクにエラーが検出されました。 システムを再起動しても再度エラーが検出される場合は、ディスクに致命的なエラーが発生している可能性があるため、至急交換してください。 (x は、1 ~ 4)	ディスクエラー	内蔵スロット x のディスクが「エラー」状態になった。 (x は、1 ~ 4)	至急システムボリュームおよびデータボリュームのバックアップを取ってください。 システムボリュームおよびデータボリュームに対してチェックディスクを実行してファイルシステムに問題がないことを確認してください。 システムを再起動可能な場合は、再起動を行ってエラーが消えるか確認してください。 内蔵スロット x のディスクを交換してください。 ZWS Manager からアンプラグできない場合は、システムの電源を切ってから交換してください。(x は、1 ~ 4)
システムボリューム上にエラーが検出されました。	ボリュームエラー	システムボリュームの状態が「失敗」となった。 システムボリュームの情報が「危険」となった。	至急システムボリュームのバックアップを取ってください。 システムボリュームに対してチェックディスクを実行してファイルシステムに問題がないことを確認してください。 構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。 システムが起動不能となった場合は、システムのリストアを行ってください。
データボリューム上にエラーが検出されました。	ボリュームエラー	システムボリュームの状態が「失敗」となった。 システムボリュームの情報が「危険」となった。	至急データボリュームのバックアップを取ってください。 データボリュームに対してチェックディスクを実行してファイルシステムに問題がないことを確認してください。 構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。 データボリュームにアクセスできなくなった場合は、データボリュームを再構築してください。
システムボリュームの冗長性が失われています。	ボリュームエラー	システムボリュームの状態が「冗長の失敗」となった。	至急システムボリュームのバックアップを取ってください。 構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。
データボリュームの冗長性が失われています。	ボリュームエラー	データボリュームの状態が「冗長の失敗」となった。	至急データボリュームのバックアップを取ってください。 構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。
システムボリュームの再構築が開始されました。	ボリューム情報	システムボリュームの状態が「再構築中」となった。	システムボリュームの状況を確認してください。
データボリュームの再構築が開始されました。	ボリューム情報	データボリュームの状態が「再構築中」となった。	データボリュームの状況を確認してください。
システムボリュームの再構築が完了しました。	ボリューム情報	システムボリュームの状態が(「正常」以外の状態から)「正常」となった。	システムボリュームの状況を確認してください。
データボリュームの再構築が完了しました。	ボリューム情報	データボリュームの状態が(「正常」以外の状態から)「正常」となった。	データボリュームの状況を確認してください。

ログ・メール内容	メールタイトル	概要	対処
ZWS RAID Manager で管理できない状態です。	(メールなし)	内蔵ディスク上にボリュームが3個以上存在する。	内蔵ディスク上にシステムボリュームと、データボリュームが1個だけ存在する状態にしてください。
本体内部の温度が仕様範囲を超えたため本体をシャットダウンしました。	温度異常	システム温度が仕様範囲を超えた。	設置環境を確認し、FANからの排熱が逃げ易い環境であることを確認して下さい。温度異常を検知したら自動的に電源が切れますので、再起動後に再び同じ現象が起きたらFANが正常に稼働していることを確認してください。
Func ボタンが押され登録されているコマンド xxx が実行されました。(x x xは登録したコマンド)	(メールなし)	Func. ボタンが有効で、Func. ボタンが押された。	Func ボタン機能が有効の場合は、Func. ボタンを3秒以上押すと登録したコマンドが実行されますので、登録されたコマンドが実行されたことを確認してください。

ZWS Manager

ZWS Manager は本製品の RAID 管理、温度管理、その他設定を行う管理ソフトです。

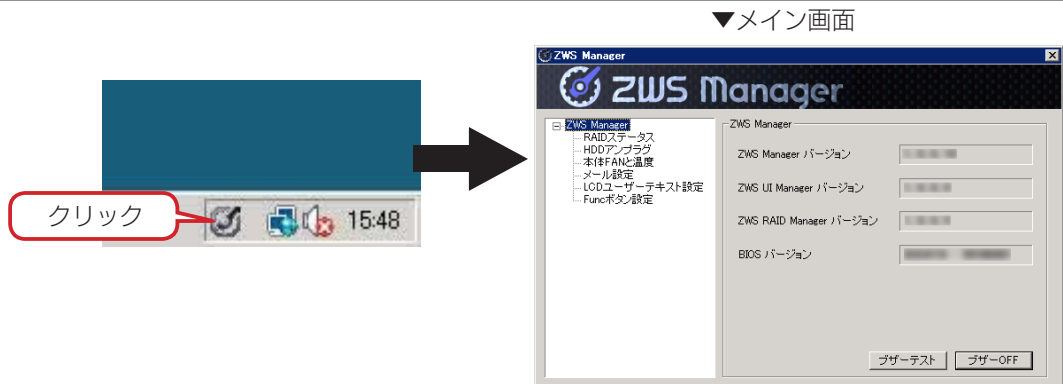
ZWS Manager は本製品の起動と同時に自動的に起動します。初期状態はタスクトレイ上に表示されています。

ご注意

- ZWS Manager は Administrator の権限のユーザーでログオンした場合のみ起動できます。

ZWS Manager メイン画面の表示方法

- 1 タスクトレイのアイコンをクリックします。
→ ZWS Manager のメイン画面が表示されます。画面左側が項目、右側が詳細情報ビューとなります。

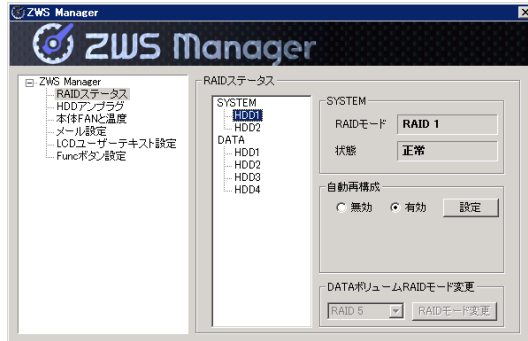


▼ ZWS Manager … メイン画面です。各種バージョンを表示します。

ZWS Manager バージョン	ZWS Manager のバージョンを表示します。
ZWS UI Manager バージョン	ZWS UI Manager のバージョンを表示します。
ZWS RAID Manager バージョン	ZWS RAID Manager のバージョンを表示します。
BIOS バージョン	製品の BIOS バージョンを表示します。

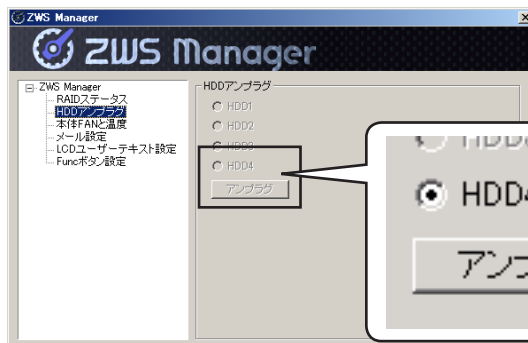
ZWS Manager 画面一覧

▼ RAID ステータス … RAID 設定の実行、RAID 情報が表示されます。



SYSTEM	システムに使用しているハードディスクを表示します。
DATA	データ領域に使用しているハードディスクを表示します。
RAID モード	現在設定されている RAID モードを表示します。
状態	現在の RAID の状態を表示します。
自動再構成	自動再構成の有効 / 無効を設定します。有効に設定すると、故障ハードディスク (カートリッジ) の交換時に自動的に再構築を行います。無効に設定すると、故障ハードディスク (カートリッジ) の交換をしても自動再構築を行いません。RAID 構成に組み込む HDD にチェックをつけてから、[設定] ボタンをクリックすると、再構築を行います。結果は RAID ステータス画面で確認します。(結果の反映まで数分必要な場合があります。)
RAID モード変更	データボリュームの RAID モードを変更・表示します。

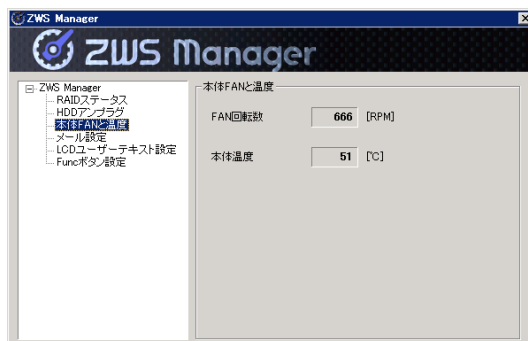
▼ HDD アンプラグ … 障害が発生したハードディスクを指定し、[アンプラグ] 処理を行います。



障害が発生したハードディスク番号以外は、選択できません。

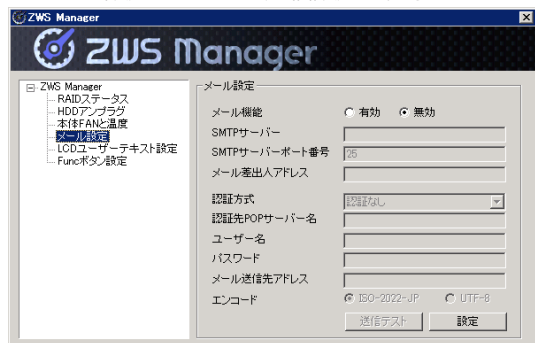
※吹き出しは、HDD4 が障害発生した場合の表示例です。

▼ 本体 FAN と温度 … FAN の回転数と本体温度を表示します。



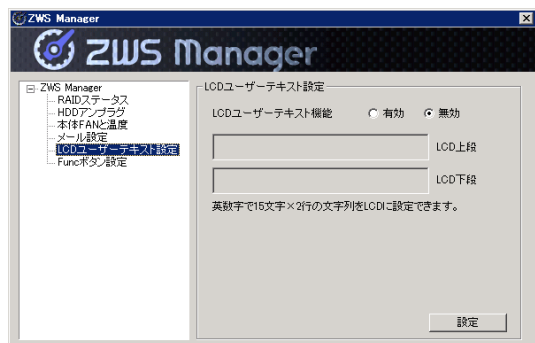
FAN 回転数	現在の FAN の回転数を表示します。
本体温度	現在の本体の温度を表示します。

▼メール設定 … メール送信設定を表示します。



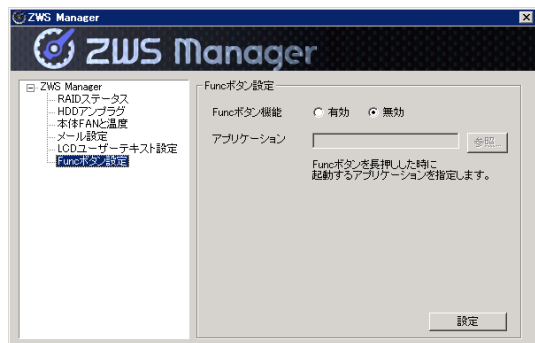
メール機能	メール機能の有効 / 無効を設定します。
SMTP サーバー	SMTP サーバーを入力します。
SMTP サーバーポート番号	SMTP サーバーポート番号を入力します。
メール差出人アドレス	差出人として表示するメールアドレスを入力します。
認証方式	認証方式を選択します。
認証 POP サーバー名	選択した [認証方式] に応じた認証 POP サーバー名を入力します。
ユーザー名	選択した [認証方式] に応じたユーザー名を入力します。
パスワード	選択した [認証方式] に応じたパスワードを入力します。
メール送信先アドレス	送信先のメールアドレスを入力します。
エンコード	エンコード方式を [ISO-2022-JP] か [UTF-8] から選択します。

▼LCDユーザーテキスト設定 … LCD のテキストの設定を表示します。(HDL-Z4WSシリーズのみ)



LCD ユーザーテキスト機能	LCD ユーザーテキスト機能の有効 / 無効を設定します。
LCD 上段	上段に表示したい文字を入れます。
LCD 下段	下段に表示したい文字を入れます。

▼ Func ボタン設定 … Func. ボタンの設定を表示します。



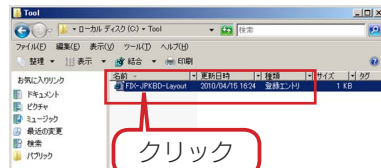
Func ボタン機能	Func ボタン機能の有効 / 無効を設定します。
アプリケーション	Func. ボタンを押すことにより、起動するアプリケーションを設定します。

USB キーボードのキー配列を変更する

本製品に USB キーボードを接続した場合、初期状態のキー配列は、英語配列として動作します。
ここでは、USB キーボードを日本語配列のキーボードとして使えるようにする設定します。

1 [スタート] → [コンピュータ] → [ローカルディスク (C:)] → [Tool] の順にクリックします。

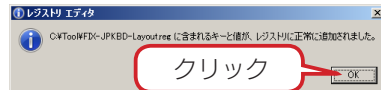
2 [FIX-JPKBD-Layout] ファイルをダブルクリックします。



3 [はい] ボタンをクリックします。



4 [OK] ボタンをクリックします。



以上で設定は完了です。

本製品をいったんログオフし、再度ログオンすると、USB キーボードを日本語配列のキーボードとして使用できます。

仕様

製品型番		HDL-Z2WS1.0	HDL-Z2WS2.0	HDL-Z4WS2.0	HDL-Z4WS4.0	HDL-Z4WS6.0	HDL-Z4WS8.0
内蔵 HDD	容量	1.0TB	2.0TB	2.0TB	4.0TB	6.0TB	8.0TB
LAN	転送規格	IEEE 802.3ab、IEEE802.3u、IEEE802.3 (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)					
	最大転送速度	1000/100/10Mbps					
	コネクタ	RJ-45 × 2					
	アクセス方法	CSMA/CD					
	MDI/MDI-X	自動切換					
	適合ケーブル	UTP カテゴリー 5e 以上、100m 以下					
eSATA ホスト	転送規格	SATA I / SATA II (NCQ 対応)					
	最大転送速度	3.0Gbps					
	コネクタ	eSATA コネクタ × 2					
USB ホスト	転送規格	USB 2.0(1.1 含む)					
	最大転送速度	480Mbps					
	コネクタ	USB A コネクタ × 5					
電源仕様	定格電圧	DC 12V		AC100V(50/60Hz)			
	消費電力(電流)	5A		91W(TYP)			
動作環境	使用温湿度	0 ~ 40°C 20 ~ 80% (結露なきこと)					
物理仕様	外形寸法*	約 102(H)×216(W)×150(H)mm			約 180(W)×235(D)×180(H)mm		
	質量(本体のみ)	約 3.6kg			約 7.2kg		

※ 突起部除く

アフターサービス

※ご提供いただいた個人情報は、製品のお問合せなどアフターサービス及び顧客満足度向上のアンケート以外の目的には利用いたしません。また、これらの利用目的の達成に必要な範囲内で業務を委託する場合を除き、お客様の同意なく第三者へ提供、または第三者と共同して利用いたしません。

お問い合わせについて

必ず以下の内容をご確認ください



弊社サポートページの Q&A を参照

→ <http://www.iodata.jp/support/>



最新のドライバソフト等をダウンロード

→ <http://www.iodata.jp/lib/>



それでも解決できない場合は、サポートセンターへ

電話：東京 **03-3254-1144** 金沢 **076-260-3644**

FAX：東京 **03-3254-9055** 金沢 **076-260-3360**

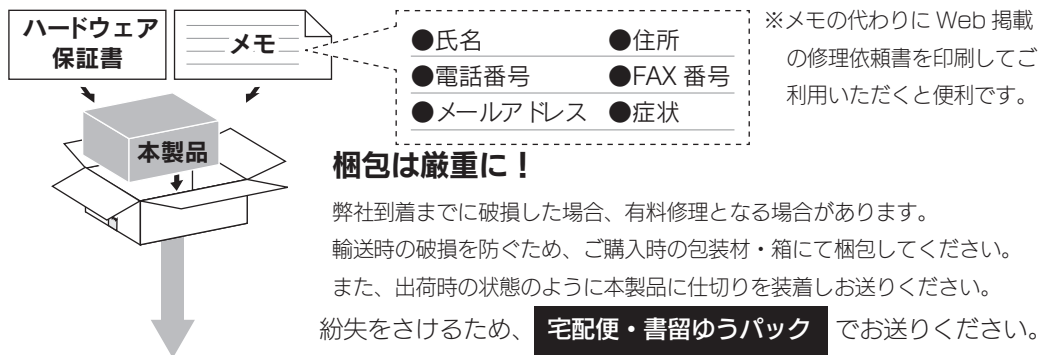
※受付時間 9：00～17：00 月～金曜日（祝祭日をのぞく）

インターネット：<http://www.iodata.jp/support/>

<ご用意いただく情報> 製品名 / パソコンの型番 / OS

修理について

修理をご依頼される場合は、以下の要領でお送りください。



〒920-8513

石川県金沢市桜田町2丁目84番地

株式会社 アイ・オー・データ機器 修理センター 宛

- 送料は、発送時はお客様ご負担、返送時は弊社負担とさせていただきます。
- 有料修理となった場合は先に見積をご案内いたします。（見積無料）金額のご了承をいただいてから、修理をおこないます。
- 内部データは厳密な検査のため、消去されます。何卒、ご了承ください。バックアップ可能な場合は、お送りいただく前にバックアップをおこなってください。弊社修理センターではデータの修復はおこなっておりません。
- お客様が貼られたシール等は、修理時に失われる場合があります。
- 保証内容については、保証規定に記載されています。
- 修理をお送りになる前に製品名とシリアル番号（S/N）を控えておいてください。

修理について詳しくは… <http://www.iodata.jp/support/after/>

【ご注意】

- 1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、別段の定めが無い限り、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
 - 2) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関する設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んだの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
 - 3) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。
また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
 - 4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
 - 5) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
- Windows[®] は、Microsoft[®] Windows[®] operating system の略称として表記しています。
 - Windows Vista[®] は、Microsoft[®] Windows Vista[®] operating system の略称として表記しています。
 - Microsoft[®]、Windows[®]、Windows Vista[®] は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
 - 一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

デジタルライフの夢を拡げる

株式
会社

アイ・オー・データ機器

本社サポートセンター：〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地

ホームページ：<http://www.iodata.jp/support/>

Copyright (C) 2010 I-O DATA DEVICE, INC. All Rights Reserved.